



# 跡見学園 最近一〇年のあゆみ（二〇〇五～二〇一五年）

跡見 學園

## 創立一五〇周年を迎えて



学校法人跡見学園 理事長 跡見 裕

明治八年（一八七五年）、神田中猿楽町に跡見女学校が設立されてから、本年は一五〇周年にあたります。創設者の跡見花蹊は画家書家として名高く、また教育者として我が国の女子教育の先達でした。まさに明治維新の動乱期の中、跡見女学校は我が国の伝統に根ざした教育を理念として掲げ船出しました。

その後も大きな嵐が吹き荒れ、必ずしも順調満帆な航海ばかりではないのですが、その都度、開設当時の理念を守りつつ、一方で大きな社会変革に対応した教育を進め今日の跡見学園があるのです。今まで学園の運営管理に携わって来られた方、卒業生、学生生徒、ご家族など、跡見学園にゆかりのある方々のお力添えやご努力に心より感謝申し上げます。

一五〇年の歴史は貴重なもので、学園では一三〇周年の時に「跡見学園――一三〇年の伝統と創造」を出版しており、これはオンラインでも読むことができますので、今回は一三〇年からの二〇年間を取り上げました。歴史を振り返り未来への架け橋としたいと考えます。さて、今学園は大きな転機を迎えています。かつて二〇〇万人以上であった出生者が七〇万人を切るという少子化が教育機関に及ぼす影響は極めて大きなものです。加えて理系志向、共学志向の流れの中で女子教育はどうあるべきなのか。今こそ私達が真剣にかつ遅滞なく検討し今後の展開を図らねばなりません。

一五〇周年が跡見学園の新たな門出となることを期待しております。

## 第一章 学園創立一三〇周年と第一の開学「二〇〇五～〇六年」4 頁

学園創立一三〇周年記念式典・祝賀会	4	活動支援	25
私立大学をめぐる環境変化と「第二の開学」	4	東日本大震災と跡見学園	25
短期大学部の閉学と女子大学の拡充	6	女子大学の地域貢献活動	27
嶋田英誠の女子大学学長再就任とキャリア支援プログラム の実施	7	跡見ギャラリー、ATOMIさくらームの開設	28
文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」 に採択	10	観光コミュニケーション学部の開設	29
文化庁支援事業の「アトミ・アニメ・アートプロジェクト」	10	心理学部の開設	31
軟式野球部とボランティアサークル「さくら」	11	女子大学のキャンパス再整備問題	32
大学基準協会の認定	12	「グローバル人材」の養成と国際交流	33
中学校高等学校の「新六日制」	13	跡見学園創立一四〇周年・女子大学開設五〇周年記念式典	34
山崎一穎の中学校高等学校長就任	14	伊勢屋質店と森鷗外「舞姫」直筆草稿を購入	35
中学校高等学校の基礎学力強化と全人教育	15	女子大学新座キャンパスが「大学の桜の名所」東日本第一位に！	36
杉本昌裕の校長就任と習熟度別クラス編成	39	嶋田英誠の中学校高等学校長就任	37
「私たちの身のまわりの環境地図作品展」で中高生が入賞	41	中学校高等学校のグランドデザイン	37
笠原清志の女子大学学長就任	42	中学校高等学校の制服を一新	39
松井真佐美の中学校高等学校長就任	42		2
山田徹雄の学長就任	23		

## 第二章 女子大学の充実と中高の教育改革「二〇〇八～九年」18 頁

女子大学文京キャンパスの開設	18		
跡見純弘理事長の退任と山崎一穎の理事長就任	19		
杉本昌裕の校長就任と習熟度別クラス編成	39		
「私たちの身のまわりの環境地図作品展」で中高生が入賞	41		
笠原清志の女子大学学長就任	42		
松井真佐美の中学校高等学校長就任	42		

「大学教育・学生支援推進事業」に採択された女子大学の就職

### 第三章 第三の開学をめざして「一〇一九年一五年」45頁

跡見学園創立一五〇周年に向けての抱負 45

地域交流センターの開設と活動 46

東京都交通局所有地の事業用定期借地権者の公募を見送る 46

新型コロナウイルスの流行と跡見学園 47

角川武蔵野ミュージアムと連携協定の締結 49

小仲信孝の女子大学学長就任 50

コロナ禍の中での中学校高等学校の教育改革 51

カリキュラムの充実と生徒の活動 52

中学校高等学校の「探究型創造学習」 55

中学校高等学校の海外留学の環境整備と高大連携 57

発掘された跡見学校 58

跡見裕の理事長就任 59

「はいからさんが通る」の使用許諾契約 61  
新学部の設置構想と既存学部学科の再編 61  
新学部「情報科学芸術学部」の設置申請とその取下げ 62

中学校高等学校のスクールバッグを刷新 63

中学校高等学校の盛夏用ポロシャツの導入 64

代々木体育館での中学校高等学校体育祭開催とメイボールの  
リニューアル 64

中学校高等学校多目的棟（仮称）の竣工 65

ホームカミングデーの開催 65

創立一五〇周年を迎えて 65

### 【略年表】 跡見学園最近20年のあゆみ 67頁

#### 凡例

\*本書は、跡見学園創立一三〇周年から一五〇周年の期間にあたる、一〇〇五年から一〇一五年までの一〇年間における跡見学園のトップを、『ブロッサム』『跡見学園報』などから拾い出して記録したものである。一〇〇五年までの記録については、『跡見学園一三〇周年史』（一〇〇五年）を参照されたい。

\*資料引用にあたって、算用数字は基本的に漢数字に改めた。また、英語の表記は、適宜横書きにしたり縦書きにしたりしている。

\*肩書は、特に断りがない限り当時のものである。

## 第一章 学園創立一三〇周年と第一の開学 [一〇〇五～〇八年]

### 学園創立一三〇周年記念式典・祝賀会

跡見学園は、一〇〇五年一月八日に創立一三〇周年を迎えた。一八七五年に跡見花蹊が神田中猿楽町に跡見学校を開設してから一三〇年の歳月が経つたのである。一〇〇五年一月一二日に文京キヤンパス内の跡見講堂に八〇〇名近くの関係者が集まり、創立一三〇周年を盛大に祝った<sup>1</sup>。

冒頭、あいさつに立った跡見純弘理事長は、跡見学園一三〇年の歩みを振り返り、幕末維新の創設期に女子教育の礎を築いた時期を

「第一の波」、戦後の復興期を「第二の波」と位置づけ、創立一三〇周年を迎えた現在は「第三の波」の中にあるとした。そして、一八歳人口の減少などにより教育制度の見直しが叫ばれているなか、跡見学園は果敢な改革を断行し、いずれ押し寄せてくる「第四の波」に向けてさらに前進しなければならないと結んだ。

式典では、鳥居泰彦中央教育審議会会长、近藤彰郎東京私立中学高等学校協会会长から祝辞を賜り、小坂憲次文部科学大臣をはじめ

多数の方からの祝電を披露させていただいた。最後に、中学校高等学校合唱部により校歌・生徒会歌が斎唱された。

祝賀会では、奥村良子校友会会长、今西信幸後援会会长からあいさつをいただいたのち、人間国宝・西川扇蔵の日本舞踊「鶴亀」の記念祝舞を鑑賞した。続いて山崎一穎跡見学園女子大学・同短期大学部学長の乾杯で和やかな歓談へと移り、学生・校友によるマンドリン演奏、オーケストラ演奏が披露された。

### 私立大学をめぐる環境変化と「第一の開学」

跡見純弘理事長によれば、創立一三〇周年を迎えた跡見学園を取り巻く環境は、とりわけ女子短期大学にとつてかつてない厳しいものであつた。跡見理事長は、跡見学園を取り巻く環境の変化をほぼ次のように認識していた<sup>2</sup>。

一八歳人口の急激な減少と進学率の頭打ちで、大学全入時代が想定よりも早くやってくる。こうしたなかで女子短期大学への志願者

<sup>1</sup> 「創立一三〇周年記念式典開催」『ブロッサム』第二〇号、一〇〇六年一月、一頁。

<sup>2</sup> 跡見純弘「第二の開学を期して」『ブロッサム』第一九号、二〇〇五年七月、一〇二頁。

が減り、女子高校生は四年制大学、しかも共学で実学系の学部学科を志望するようになっている。そのため、四年制大学の近年の学部学科設置の動向をみると実学系の学部学科が多く、短期大学の領域を脅かすようになった。一方で、短期大学の実学教育をさらに徹底し、これまでにない新たな職業分野を切り開く専門学校の進展も著しい。短期大学は、いわば四年制大学と専門学校に挟撃されているというのである。

短期大学卒業生の就職状況も悪化していた。出口の見えない長期の不況と雇用の流動化により、短期大学卒業生の就職先が急激に減少した。一方、女子高校生の親世代も、子どもの自立性をより高める四年制大学への進学を望むようになってきた。短期大学は、入口（入学）と出口（就職）の両方で厳しさを増しているのである。

跡見学園短期大学も例外ではなく、一九八二年に文科英文専攻を開設してからは消費収支が赤字基調となり、この二、三年は定員割れに陥っている。跡見理事長は、跡見学園を取り巻く環境と経営の状況を以上のように認識し、次のように述べた<sup>3</sup>。

このことから、私は、志願者吸引力をさらに高め、常に将来

に備え財務基盤を強化し、学園経営の安定を確保するためには、短期大学部の学科構成等の枠にとらわれない自由な発想に立て、茗荷谷キャンパスと新座キャンパスとの一体的な活用も視野に短期大学部の教育資源を女子大学の四年生課程の中に発展的に組み込み、学生に対しさらに開かれた多様な教育機会と高度な教育サービスを提供するという、短期大学部の転換に踏み出す必要があるとの結論に至りました。

跡見純弘理事長は、早速一九九〇年一一月、女子大学の学長、中学校高等学校の校長に対して、二〇〇〇年以降の臨時の定員増（急激な十八歳人口拡大への対応策として、一九八五年に制度化された期限を限つた入学定員の増加政策）終了後を視野に入れた将来構想を具申するよう求め、一九九一年五月には将来計画を取りまとめるため「合同協議会」を発足させた。それから二か月後の同年七月には、文部省が臨時の定員増の終了と一八歳人口の減少を視野に入れて設置基準の大綱化を打ち出し、高等教育改革の環境づくりに本格的に乗り出した。合同協議会の議論は「企画委員会」に引き継がれて一九九七年三月まで続けられ、女子大学と短期大学の間での単位

<sup>3</sup> 跡見純弘「第二の開学を期して」『ブロッサム』第一九号、二〇〇五年七月、一頁。

互換や編入学が実現し、カリキュラムの相互検討なども行われた。

### 短期大学部の開学と女子大学の拡充

跡見学園では、跡見純弘理事長のもとで改革に着手し、一九九五年に短期大学を女子大学短期大学部に改組した。そして、一九九七年五月には、学外の有識者三名を招いて「協力者会議」を設置した。協力者会議からは、同年七月に「未来の女性のための新しい学問創造を目指した、文学系・家政系を中心の従来の女子大には前例のない

本格的な社会科学院系の新学部（総合管理学部）を創設し、短期大学部を含む既存学部学科のすべてを一学部（総合文化学部）にまとめ改組転換するという大胆な「学部構想」（二学部四学科）の提言を受けた<sup>4</sup>。

これを受け、学内理事を中心に教職員一〇名からなるプロジェクトチームが編成され、四〇回にも及ぶ討議を重ねた。慎重な討議の結果提出された答申に基づき、文学部の国文学科、美学美術史学科、英文学科、文化学科の四学科を人文学科に改組することとし、二〇〇一年三月に人文学科の設置を文部科学大臣に申請し、同年五

月に認可された。また、同年四月には、文学部臨床心理学科とマネジメント学部マネジメント学科の設置認可を申請し、臨床心理学科は同年八月、マネジメント学科は同年一二月に認可され、両学科とも二〇〇二年四月に開設された。マネジメント学部マネジメント学科は二〇〇六年三月に最初の卒業生を出したが、一〇〇%近い就職率を達成し、はからずも跡見学園のこの間の一連の改革が、学生のニーズや社会的要請に応えるものであつたことを立証することになつた<sup>5</sup>。

しかし、跡見純弘理事長によれば、改革はなお道半ばであつた。<sup>6</sup>

跡見学園では、一〇〇七年三月末で短期大学部を閉学し、短期大学部が使用していた文京キャンパスの校舎や施設を女子大学用に衣替えすることになつていて。そして、同年九月六日には文京キャンパスに女子大学用の校舎二号館の竣工式が行われ、同年度の秋学期から全学部学科の学生が一・二年次には新座キャンパスで、三・四年次には文京キャンパスで授業を受けることになった。跡見純弘理事長は、これをもつて一九九七年以来の改革が成就し、跡見学園は

<sup>4</sup> 跡見純弘「第二の開学を期して」『ブロッサム』第一九号、二〇〇五年七月、二頁。

<sup>5</sup> 跡見純弘「ご挨拶」『ブロッサム』第二二号、二〇〇七年一月、一頁。

「第二の開学」を迎えたと述べた<sup>6</sup>。

かくて、跡見学園女子大学短期大学部は一〇〇七年三月に閉学となり、一九五〇年の跡見学園短期大学の開設以来五七年の歴史に幕を閉じたのである。短期大学で培われた伝統と教育・研究の蓄積は、女子大学に引き継がれていくことになった。

実際、跡見学園女子大学は閉学となつた短期大学部の収容定員を転用して、一〇〇六年四月、文学部にコミュニケーション文化学科、マネジメント学部に生活環境マネジメント学科を開設した。また、大学院も開設し、人文科学研究科修士課程（日本文化専攻・臨床心理学専攻）、マネジメント研究科修士課程（マネジメント専攻）を設置した。なお、大学院生の修学地は、人文科学研究科が新座キャンパス、マネジメント研究科が文京キャンパスということになつた。

こうして女子大学は、大学院二研究科三専攻（修士課程）、二学部五学科を擁する大学となつた。なお、大学院人文科学研究科臨床心理学専攻は、一〇〇六年四月二〇日付で財団法人日本臨床心理士資格認定協会より第一種大学院の指定を受けた。第一種大学院の指定を受けると、大学院終了後すぐに臨床心理士資格審査の受験が可

能となる。しかし、第一種大学院の認定を受けるには、科目担当教員の五名以上が臨床心理士の有資格者で、専任教員が四名以上いなければならず、しかもそのうちの一名以上は教授でなければならなかつた。臨床心理学専攻は、そうした条件を満たしていたのである。

ところで女子大学では、一〇〇五年四月から学内の情報伝達共有システムとして「アトミ・インフォメーション・ポータル」を導入し、ウェブを利用して情報伝達の一元化をはかつた。ウェブによる履修登録、シラバスや成績の閲覧などが可能となり、個人伝言機能も利用できるようになつた。休講や教室変更などにかかる情報も随時提供され、学生のキャンパスライフの利便性が著しく向上した。

### 嶋田英誠の女子大学学長再就任とキャリア支援プログラムの実施

一〇〇六年四月、文学部教授の嶋田英誠が女子大学の学長に再就任した。嶋田は一九八九～九〇年にも女子大学の学長に就任しており、九八年からは山崎一穎学長のもとで副学長を務めていた。なお、嶋田は短期大学部の学長も兼任していた。嶋田学長のもとで、前述のように女子大学は新たな飛躍の時代を迎え、短期大学部は閉学と

<sup>6</sup> 跡見純弘「法人ニュース」『跡見学園報』第四二号、二〇〇五年七月一五日、一頁。

なつたのである。

女子大学では、一〇〇六年度から、キャリア支援プログラムを正課として実施するようになった。キャリア教育とは単なる職業教育ではなく、自分で自分の進むべき道を判断できる能力を養うことというのが女子大学の理解であつた。跡見学園では、一九九七年に一世紀の学園における高等教育のあり方を考えるプロジェクトチ

ームを発足させていたが、このプロジェクトチームの中でキャリア形成のための支援プログラムが構築されたのである。プロジェクトチームのメンバーは、文部省の大学課に出向いてレクチャーを受け、建学の理念を振り返りながら跡見学園の独自性を活かしたキャリア支援カリキュラムを開発していく<sup>7</sup>。

つけるための「ソーシャルマナー」の三科目を一年次の必修とした。そのほか、社会人形成科目としては「実用数学技能演習」「日本漢字能力演習」を三～四年次の選択科目として配置した。なお、「花蹊の教育と女性の生き方」の講義は「創設者である跡見花蹊の唱えた精神と女性のあるべき姿を教える」もので、前学長の山崎一穎が担当した<sup>8</sup>。

また、マネジメント学部二年次には、「実践ゼミナール」として「アカデミック・インターナシップ」を必修科目として配当した。学生たちは、単にインターンシップに参加するだけでなく、事前にマネジメントに関する実践的な理論、インターナシップ先の業界や企業について学び、実施後には参加者による体験を発表した。アカデミック・インターナシップはマネジメント学部マネジメント学科によつて開設以来実施されてきたが、その後開設された同学部生活環境マネジメント学科および観光マネジメント学科でも実施されている。マネジメント学部の特徴の一つでもあり、同学部の芝原脩次学部長はその点について次のように述べている<sup>9</sup>。

<sup>7</sup> 嶋田英誠「跡見学園女子大学のキャリア支援プログラム」『ブロッサム』第二九号、二〇一〇年七月、一一〇一二二頁。

<sup>8</sup> 「学長対談 いま求められる女子高等教育とは？ その期待と責任」『ブロッサム』第一九号、二〇〇五年七月、四頁。

<sup>9</sup> 芝原脩次「学部長就任のご挨拶」『ブロッサム』第二五号、二〇〇八年七月、一頁。

マネジメント学部は、確かな理論に裏打ちされた実践的な力リキュラムを特色としています。それを最も特徴付けるのが、二年次の必修とされる「アカデミック・インターンシップ」です。一定期間、企業や地方自治体などで就業体験するインターンシップは、多くの大学では三年次に実施されていますが、本学部が二年次生を対象としたのは、実社会をいち早く体験することで、自分の適性や不足している知識・技術を発見し、三・四年次の学習に活かすとともに、確かなキャリア設計につなげることを狙いとしているからです。

応用実践科目は二一科目からなり、公務員試験のための講義やTOEIC受験のための科目のほか、「対人関係のスキル」「職業人のルールとモラル」などの実務的な科目が並んでいる。キャリア支援教育関連科目を開設するにあたって、女子大学では第一に実社会との交流を積極的に図ることとした。企業や行政機関などで活躍されている方を専任教員として迎えただけでなく、女子大学の教職員も大学から実社会に飛び出して企業や地元市民との交流を深めた<sup>10</sup>。

<sup>10</sup> 前掲「跡見学園女子大学のキャリア支援プログラム」一一〇一二二頁。

表1 キャリア支援教育関連科目（2006年度）

社会人形成科目 (1年次必修)	社会人形成形成科目 (3~4年次選択)	応用実践科目	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフプラン・キャリアプラン</li> <li>・花蹊の教育と女性の生き方</li> <li>・ソーシャルマナー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実用数学技能演習</li> <li>・日本漢字能力演習</li> <li>・実践ゼミナール (マネジメント学部2年次必修)</li> <li>・アカデミック・インターンシップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(1~2年次選択)</li> <li>・パーソナリティを考える</li> <li>・「自分らしさ」を探る</li> <li>・対人関係のスキル</li> <li>・ストレス・マネジメント</li> <li>・職業人のルールとモラル</li> <li>・産業と職業</li> <li>・マスコミとの付き合い方</li> <li>・会計学特別演習</li> <li>・ビジネス特別演習</li> <li>・自己表現特別演習</li> <li>・TOEIC特別演習</li> <li>・ディベート演習</li> <li>・ビジネス文章表現演習</li> <li>・プレゼンテーション演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(3~4年次選択)</li> <li>・情報処理特別演習</li> <li>・公共経済特別演習 (公務員試験 数的処理)</li> <li>・公共経済特別演習 (公務員試験 法律系)</li> <li>・公共経済特別演習 (公務員試験 政治経済系)</li> <li>・簿記特別演習</li> <li>・イベント検定特別演習</li> <li>・色彩検定特別演習</li> </ul> <p>情報処理展開科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Microsoft Office Specialist特別演習</li> </ul>

## 文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」に採択

文部科学省は、一〇〇四年度から「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」を開始した。これは、社会的要請の強い政策課題に対する各大学の教育的な取り組みのうち特に優れたもの（Good Practice）に財政的な支援をし、高等教育の活性化を図るという試みである。

女子大学のマネジメント学部は「実践教育の場としての地域連携プログラム」を提案し、一〇〇五年度の文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム〔現代GP〕」に応募し「地域活性化への貢献〔地域密着型〕」の分野で採択された。応募総数は五〇九件、うち八四件が採択された。なお、単独で申請した私立大学は一八三校で、「地域活性化への貢献（地域密着型）」の応募件数は六六件であつた。

「美学教育」を基本理念とするマネジメント学部は、学生を社員とする学内に組織された有限会社「ハイカラ」を通して、二〇〇五

〇〇七年度の三年間にわたって、新座市、新座商工会、新座に本拠を置く企業や各種団体と連携し、学生が主体的に「快適にいざ・一〇〇選」の選定や「快適にいざ・一〇の提言」にかかり、フリーペーパーやウェブサイトの作成などに取り組んだ<sup>11</sup>。なお、「ハイカラ」は学生によって自主的に運営され、商品開発、イベント企画、マーケティング、アンケート・モニター調査など多彩な活動を展開していた<sup>12</sup>。

## 文化庁支援事業の「アトミ・アニメ・アートプロジェクト」

文学部の杉本昌裕教授の指導のもと、女子大学の学生たちが取り組んだ「アトミ・アニメ・アートプロジェクト」が文化庁の「文化芸術による創造のまち」支援事業の一つに採択された。文化庁は「地域における文化芸術の創造、発信及び交流を通した文化芸術活動の活性化を図ることにより、我が国の文化水準の向上を図ること」を目的に同支援事業を実施してきた。女子大学の学生たちは、一〇〇七年から二〇一〇年にかけての三年間にわたって「アトミ・アニメ・

<sup>11</sup> 「各機関別事業の実績」『跡見学園報』第四二号、二〇〇六年七月一五日、一四頁、「文部科学省「平成一七年度 現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）に選定されました」『ブロッサム』第二〇号、二〇〇六年一月、一〇頁。

<sup>12</sup> 芝原脩次「学部長就任のご挨拶」『ブロッサム』第二五号、二〇〇八年七月、一頁。

アートプロジェクト」に取り組んだ。

学生たちは、自らが中心となって人形作家の川本喜八郎ら若手作家の協力を得ながら、ともかくも三本の短編アニメーションを完成させた。川本は、NHK「三国志」の人形作家で監督でもあつた。杉本教授は、このプロジェクトを通して「先輩と後輩、教師と学生、子どもたちと学生、集団と集団など、人と人との繋がりの組み合わせは予想以上に広がりを見せ、まちづくりの基本であるコミュニティーづくりを体得できた」と語っている<sup>13</sup>。

### 軟式野球部とボランティアサークル「さくら」

女子大学には、一九七八年に創設されたヴァイオレツツ（Vi o le t s）という愛称をもつ軟式野球部があつた。一九八七年度から毎年八月に「全日本大学女子軟式野球選手権大会」が、富山県魚津市で開催された。一九九〇年一〇月から九四年一〇月まで女子大学の学長を務めた和田英道の肝いりで、ヴァイオレツツは当初からこの大会に参加してきた。

なお、軟式野球部は二〇二〇年に起こったコロナ禍を乗り越えられずに廃部となつたが、二〇二三年一二月に軟式野球愛好会として再結成された。メンバーが五人しかいないので、二〇二四年度の関東大学女子軟式野球連盟主催の春季リーグには千葉商科大学と合同チームを作つて参加した。上智大学、早稲田大学と対戦し、敗れはしたが、本学選手が上智大学戦では二打数一安打、早稲田大学戦では三打数二安打二ホームランと大活躍し、打率六割で首位打者に輝いた<sup>14</sup>。また、秋期リーグには立正大学との合同チームで参加し、

<sup>13</sup> 杉本昌裕「アトミ・アニメ・アート・プロジェクトの三年間」『跡見学園女子大学学報』第六九号、二〇一〇年三月一五日、五頁。

<sup>14</sup> 「女子大学軟式野球部がリーグ優勝を達成!」『ブロッサム』第二四号、二〇〇八年一月、一〇頁。

<sup>15</sup> 「軟式野球・春季リーグで本学選手が首位打者に!」『ブロッサム』第五七号、二〇二四年一二月、一八頁。

同選手が春季リーグに続いて首位打者となり、別の本学選手（心理学部心理学科三年）が優秀選手賞を受賞した<sup>16</sup>。

女子大学のボランティア団体「やくみ」は、日本赤十字社の学生赤十字奉仕団に登録し、老人ホームや児童養護施設を訪れて入所者と触れ合つたり、学内献血を定期的に行つたりしてきた。このようない常的な活動が評価され、一九九一年に続いて二〇〇八年にも内閣府の「善行青少年健全育成功労者（善行青少年団体）」として表彰された。その後も、学内献血は毎年六月と一月に行われ、二〇一〇年度に継続三〇年を迎える厚生労働大臣から感謝状を授与された<sup>17</sup>。

女子大学は二〇〇八年一月、大学基準協会に「大学評価申請書」を提出した。同年一〇月には同協会による新座キヤンバス、文京キヤンバスの実地視察を受けた。そして、二〇〇九年三月一二日に「跡見学園女子大学に対する大学評価結果ならびに認証評価結果」を受け取り、「大学基準に適合している」と認定された。マネジメント学部のインターンシップ、就職指導、社会人形成科目、アカデミックアドバイザー制度、情報公開への積極的な姿勢などが高い評価を受けた<sup>18</sup>。

その後、女子大学では二〇一五年度にも大学基準協会の認証評価を受け「貴大学は本協会の大学基準に適合していると認定する」との評価結果を得た。ただし、「総評」において次のような改善点が指摘された<sup>19</sup>。

二〇〇四年度から認証評価制度がスタートし、すべての大学が文部科学大臣の認めた機関による認証評価を受けることが法的に義務付けられた。これによつて、大学は社会に向けて「大学の質」を保証できることになった。

### 大学基準協会の認定

<https://www.atomi.acjp/univ/activity/detail/14201/>

「学内献血の貢献に対して日本赤十字社から感謝状が贈られました」『ブロッサム』第三〇号、二〇一一年一月、一四頁。

「大学基準協会による大学評価」『跡見学園報』第四八号、二〇〇九年七月一六日、五四頁。  
「女子大学の大学基準協会からの指摘事項について」『跡見学園報』第六五号、二〇一八年一月一五日、一六〇一七頁。

の実施に加え、改善につなげるシステムを構築し、大学院教育の充実や二つのキャンパスでの教育研究環境の充実を図つていくことがのぞまる。

この指摘を踏まえ、女子大学の自己点検・評価委員会では内部質保証に関する全学的な新組織体制のもとで、自己点検・評価活動を行なうべく準備を始めた。

### 中学校高等学校の「新六日制」

中学校高等学校では、学祖・跡見花蹊の唱えた「全人教育」をめざし、「本物に触れ、豊かな心を育てる教育」を実践してきた。具体的には、中学一年の鶴原寮（千葉県勝浦市）での臨海行事、二年の日光や白根山での林間行事、三年の広島への修学旅行、さらには校外で実施される植物観察や写生などである。また、世界トップレベルのオペラやバレエ、能や狂言などの芸術を鑑賞する機会も多く持つてきた。

中学校高等学校では、中学校では「新たに手にする時間的余裕を生かして、教科教育や進路指導の強化だけでなく、礼儀・作法や芸術、スポーツなどを含めた全人教育についても、さらに充実・強化していく」という、新たな挑戦<sup>20</sup>であった<sup>21</sup>。教務主任の伊東利博は、新六日制を導入するに至った経緯について、より具体的に次のように述べている<sup>21</sup>。

その全人教育をさらに発展させるため、二〇〇五年度には週当たりの授業日を五日から六日に一日増やすことにした。これを「五日制」から「新六日制」への移行と称している。というのは、知識偏重型の教育方針に対する反省のもとに「ゆとり教育」が提唱された。以来、中学校高等学校では学校行事を厳選し、授業の質を最大限に高め、五日制という時間の制約を乗り越えようと努力してきた。その経験を活かして再度六日制に転換するので、単純に元の六日制に戻るわけではないという意味で「新」六日制なのである。平井毅校長によれば、「新たに手にする時間的余裕を生かして、教科教育や進路指導の強化だけでなく、礼儀・作法や芸術、スポーツなどを含めた全人教育についても、さらに充実・強化していく」とい

りの授業日を五日から六日に一日増やすことにした。これを「五日制」から「新六日制」への移行と称している。というのは、知識偏重型の教育方針に対する反省のもとに「ゆとり教育」が提唱された。以来、中学校高等学校では学校行事を厳選し、授業の質を最大限に高め、五日制という時間の制約を乗り越えようと努力してきた。その経験を活かして再度六日制に転換するので、単純に元の六日制に戻るわけではないという意味で「新」六日制なのである。平井毅校長によれば、「新たに手にする時間的余裕を生かして、教科教育や進路指導の強化だけでなく、礼儀・作法や芸術、スポーツなどを含めた全人教育についても、さらに充実・強化していく」とい

りの授業日を五日から六日に一日増やすことにした。これを「五日制」から「新六日制」への移行と称している。というのは、知識偏重型の教育方針に対する反省のもとに「ゆとり教育」が提唱された。以来、中学校高等学校では学校行事を厳選し、授業の質を最大限に高め、五日制という時間の制約を乗り越えようと努力してきた。その経験を活かして再度六日制に転換するので、単純に元の六日制に戻るわけではないという意味で「新」六日制なのである。平井毅校長によれば、「新たに手にする時間的余裕を生かして、教科教育や進路指導の強化だけでなく、礼儀・作法や芸術、スポーツなどを含めた全人教育についても、さらに充実・強化していく」とい

<sup>20</sup> 平井毅「ご挨拶 理想の全人教育の実現をめざし、全教職員一枚岩となつた教育改革を」『ブロッサム』第一七号、二〇〇四年七月、一頁。  
<sup>21</sup> 伊東利博「生まれ変わった「新六日制」とは?」『ブロッサム』第一七号、二〇〇四年七月、三頁。

ラムの導入をはじめ、前期・後期の分割時期の変更、土曜講座や補講の開講など、少ない日数の中で充実した教育を行う方法を考えました。

しかし、一日少なくなることは生徒にとつても教員にとつても負担が大きく、さまざまな面で歪みが出てきてしまいました。また、週五日制を導入した頃とは、保護者のニーズもまったく変化し、より質の高い教育が求められるようになっています。このような状況の中で、跡見学園の伝統であるきめ細やかな教育を行うためには、やはり五日制では時間的な制約が大きいという結論に達し、五日制で培つたものを生かした「新六日制」を採用することにしたのです。

中学校高等学校では旧六日制→五日制→新六日制へと変化していく中で、固定されたコース制（文系・理系・文理系のコースを一度選択すると途中で変更できない制度）を廃止して選択科目を増やすなど、より自由度が高く生徒一人一人の目指す進路に対応できるカリキュラムを作成し、課外活動などの面でもよりきめ細やかな指

導ができる体制をつくり上げた。新六日制への移行によって、眞の意味での「ゆとり」が生まれることが期待されていた。

### 山崎一穎の中学校高等学校長就任

中学校高等学校長の平井毅は、二〇〇六年一二月、病気療養のため二〇〇七年三月三一日付で辞任することになった。跡見純弘理事長は、新年度に向けた準備、中学校の入試、高校三年生の進路決定、成績判定、卒業式・入学式などが目白押しのこの時期に後任の校長候補者選挙を実施するのは困難であると考え、平井校長の残任期間（二〇〇八年三月三一日まで）における校長には山崎一穎常務理事（教学担当）に就任してもらうのが妥当であると判断し、二〇〇六年一二月二一日の中学校高等学校教職員会の意見聴取でも賛同を得た<sup>22</sup>。こうして、二〇〇七年四月、前跡見学園女子大学学長の山崎一穎が中学校高等学校の校長に就任した。

山崎は、校長就任にあたって以下のように抱負を述べた<sup>23</sup>。

長い伝統に根ざした質の高い教育で知られる跡見学園中学

<sup>22</sup> 「跡見学園中学校・高等学校長の選任に関する件」『跡見学園報』第四四号、一頁。

<sup>23</sup> 山崎一穎「新校長ご挨拶 建学の精神に立ち返り、“自律し、自立する”女性を育てます」『ブロッサム』第二二三号、二〇〇七年七月、一頁。

校高等学校ですが、近年、そうした跡見らしさがうすれ、不透明になっているという指摘もあります。教育基本法改正、それに続く教育関連法改正等、「教育再生」が国家レベルでも重要な課題とされていますが、着任に当たって私は、跡見におけるマンネリ化した状況を打破し、新たな跡見学園中学校高等学校の姿を作っていくためには、教職員が一丸となつて改革に取り組んでいかねばならないと痛感しました。

山崎新校長が跡見の「マンネリ化した状況」をどうとらえていたのかは必ずしも明らかではないが、ともかくも四月、五月中に全教職員九〇人と面談を実施し、「校長に強力なリーダーシップを發揮して、改革を推し進めてほしい」という答えを引き出した。山崎の中学校高等学校の教育方針は、受験教育と全人教育の両立で提唱した。そして、全人教育では、中学では「自律」に比重を置き、基本的な生活習慣を身につけることを目標とし、高校では「自立」する人間、すなわち「個性を發揮し、自ら考え、判断し行動する人間となること」を目指すというのであった。山崎は、毎月高中生に「校長講話」を通じて語りかけ、自ら理想とする全人教育を実践した。

受験教育と全人教育は矛盾するようであるが、山崎においてはそうではなかつた。山崎によれば、受験教育とは大学進学のための基礎学力の強化であつた。跡見学園は全人教育を基本理念としてきたが、保護者の負託に応えて「学習指導・進路指導において面倒見の良い学校」になることが重要で、中高一貫教育のメリットを最大限に生かして、基礎学力の強化に向けたカリキュラム改革をはからなければならぬといふのであつた。

### 中学校高等学校の基礎学力強化と全人教育

山崎一穎の中学校・高等学校長の任期は二〇〇八年三月三一日までであったが、引き続き校長に再任された。跡見純弘理事長は、山崎校長の実績を以下のように整理した。

平成一九年四月就任以来、偏差値四四という現実を直視し、

学園の中等教育について面倒見がよく高度な大学進学実績を目指す方向に舵を切るため、校長として着手した学校改革（教職員面談・授業見学の実施、グランドデザインの構築、中一の八クラス編成、カリキュラムの見直し、責任授業時間数に関する規程等の整備等）については、ようやく実施への準備が整いつつあるところである。

そして、「現校長が示した学校改革の方向をさらに強力に推し進め確かなもの」にするため山崎を校長に再任した。任期は、二〇一二年三月三一日までであった。

こうして中学校高等学校では、大学進学に向けた基礎学力の強化と跡見学園の伝統である全人教育の継承を目的に据えた。中学校では、一年生を一クラス三五名の八クラスに編成し、全学年で七時限目を「中学補習」の時間にあて、学習の遅れている生徒の手助けをし、全体の基礎学力の向上を図った。中間、期末の考查後には、二〇名前後の生徒を指定してチームティーチングを実施し、学習の遅れを取り戻すとともに学習習慣を身につけさせることを目的にきめの細かい指導を行った。

全人教育の面では、中学校では「時間をする」「挨拶をする」「自ら進んで勉強する」といった基本的生活習慣を身につけるように指導した。そして、高等学校では将来の進路を定め、それに向かって計画を立て実行するように指導する。中高一貫の私学のメリットを活かして、六年間で自分の人生をマネジメントできる力（ライフデザイン力）を身につけるよう指導し、面倒見の良い学校になること

入試などで小論文を書く機会が増えたからである。また、七時限目に英語の特別クラスを設け、帰国生と英語の好きな高校一年生を対象にネイティブスピーカーによる指導を行うようにした。

英語教育には、中高とも力を入れていた。中二、中三では一クラスを二分割し、高校では二クラスを三分割して少人数・習熟度別の授業を行った。高校三年生では、英語演習Cを選択すれば、最大週九時間の英語の授業を受けることができるようになった。なお、数学でも、中一の授業の配当時間数を増やしたほか、高三では最大七時間の授業を受けられるようにした。一方、集団づくりの第一歩として、コミュニケーションスキルの向上にも取り組んだ。さらには漢字検定や英語検定の受験も奨励した。教職員の研修にも力を入れ、校内教職員研修を定例化し、二〇〇八年五月には「思春期の生徒に対する接し方」をテーマに研修会が行われた。

全人教育の面では、中学校では「時間をする」「挨拶をする」「自ら進んで勉強する」といった基本的生活習慣を身につけるように指導した。そして、高等学校では将来の進路を定め、それに向かって計画を立て実行するように指導する。中高一貫の私学のメリットを活かして、六年間で自分の人生をマネジメントできる力（ライフデザイン力）を身につけるよう指導し、面倒見の良い学校になること

をめざした<sup>24</sup>。

が同じ数ずつあつた。

二〇〇九年一月一四日には中学校高等学校の卒業生を招いて、女子大学二号館のブロッサムホールで「マイライフ」をテーマとするシンポジウムを開催した。実社会で活躍されている卒業生を招いて、跡見学園中高での思い出や人生の転機、挫折、仕事に取り組む姿勢などについて語つてもらい、在校生に自らのライフデザインを考える参考にしてもらおうというねらいであった。このシンポジウムは二〇一四年度まで六回にわたって開催され、登壇していただいた卒業生は合計一七名にのぼった。職業は、騎馬隊の調教師、医者、バイオリン製作者、大学教授、弁理士、新聞記者、博物館研究員、弁護士、オペラ歌手などさまざま、熱く語る卒業生の「マイライフ」に跡見中高生、受験生、保護者などが聞き入っていた<sup>25</sup>。

中学校高等学校では、二〇〇八年度教育課程の改訂および中学一年生の八クラス編成に伴い、必要教室数を確保するためグラントの東側に二階建て・鉄骨造りの教室棟を新築した。教室棟の規模は、床面積四一六平方メートル（一階・二階とも二〇八平方メートル）、建築面積二三四・八平方メートルで、三五席の教室と四二席の教室

<sup>24</sup> 山崎一穎・住川明子「動き出した中高の新しい取り組み」『ブロッサム』第二五号、二〇〇八年七月、一一頁。

<sup>25</sup> 「中高レポート 中学校高等学校シンポジウム「マイライフ」開催」『ブロッサム』第二八号、二〇一〇年一月、九〇一〇頁)。

## 第二章 女子大学の充実と中高の教育改革〔二〇〇八～九年〕

### 女子大学文京キャンパスの開設

二〇〇八年一〇月、文京キャンパスに女子大学の二号館（地上九階、地下一階、総面積一万一八七五・六一平方メートル）がオープンした。一階にはエントランスホールと生協の店舗が置かれ、地下

一階から地上一階にかけて約四五〇人を収容する階段状の教室（プロッサムホール）が配置される。そして二階は事務スペースで、三階から八階まで各種教室が配される。教室の編成は、三〇〇人規模の教室が二室、二〇〇人規模の教室が五室、一五〇人規模の教室が一〇室、八〇人規模の教室が一〇室、四〇人規模の教室が一四室、演習室・演習スペースが一一室、そのほかPC教室が三室、書道演習室が一室である。各教室にはPC、プロジェクター、DVD、VHS、教材掲示装置などのAV機器が設置され、さまざまな授業形態に対応できるようになっている。また、各階にインタラクティブ・スペースと自習スペースが配され、眺望のよい最上階には屋上庭園と多目的ホールが配された。学生の移動が円滑に行われるよう大教

室は低層階に配置され、エレベーターも三機設備された。こうして、文京キャンパスに新築された二号館には、約二〇〇〇人の学生がゆつたりとした環境の中で学べるよう、あらゆる工夫が凝らされている<sup>26</sup>。

跡見学園では、一九九七年から新校舎（二号館）の新築に着手するほか、図書館や学生食堂のある一号館（旧短大東館）、体育館のある三号館（旧短大西館）を改築し、短期大学が使用していた文京キャンパスのリニューアルを進めてきた。そして、女子大学は二〇〇八年の秋学期から新座、文京の両キャンパスを使用し、学部の一・二年生と人文科学研究科の大学院生は新座キャンパスで、学部の三・四年生とマネジメント研究科の大学院生は文京キャンパスで学ぶことになった。二〇〇八年六月には東京メトロ副都心線と東武東上線の相互乗り入れが実現し、文京キャンパスと新座キャンパスの移動はより便利になっていた。

女子大学長の嶋田英誠は二号館の竣工式の場で、「私たちの大学

<sup>26</sup> 「茗荷谷新棟建設状況」『跡見学園女子大学 学報』第六〇号、二〇〇七年三月一五日、四頁。

はこの十数年間、二二世紀の女子教育はどうあるべきか、常に考えたゆまぬ自己改革を続けてまいりました。その中で、文京キャンパスに教育の場を構えることは、新しい女子教育を目指す私たちの長年の願いであり、「夢でした」と述べた<sup>27</sup>。新座キャンパスは、女子大学が開学以来四〇年間にわたって使用してきた緑豊かなキャンパスで、一・二年生の情操を養うのに最適な教育空間であった。また、短期大学が使用してきた文京キャンバスは、最新の設備と利便性を備えた都市型のキャンバスで、基礎教育を終えた三・四年生が専門の学問を収めるには最適の環境といえる。こうして、跡見学園に、二二世紀に生きる女性の育成に最適な教育環境が整備されたのである。なお、女子大学の文京キャンパスリニューアルを記念して、二〇〇七年一月一七日に「働く私のライフスタイル」、二〇〇八年一月一五日に「マイストーリー 私の転機」と題するシンポジウムが行われた<sup>28</sup>。

文京区は「坂・緑・史跡」を活かした個性豊かな魅力ある景観づくりを推進しており、二〇〇一年に「文の京 都市景観賞」を創設<sup>29</sup>

していたが、女子大学の二号館は二〇〇八年度の「第八回 文の京都市景観賞 景観創造賞」を受賞した。また、女子大学二号館の完成によって、跡見純弘理事長が一九八七年に理事長に就任してから進めてきた学園教育施設の改善充実が一応の目的を達成したことになる。そこで、これを機に中学校高等学校の施設である跡見小講堂を、跡見花蹊の意思を継いで二代校長として跡見学園の発展を支えた跡見李子の功績をたたえて「跡見李子記念講堂」と命名し、銘板を講堂入口上部と講堂内左正面に設置した<sup>29</sup>。

### 跡見純弘理事長の退任と山崎一穎の理事長就任

跡見純弘理事長は、文京キャンバスの二号館（大学新棟）の建設を一九八七年にスタートした一連の学園改革の総仕上げと位置付けていた。その一号館がオープンした今、残された理事長としての仕事は「次の世代の学園の経営を担う新しい組織を作り上げて円滑な移行をはかることにある」として、二〇〇九年五月に開催された理事会・評議員会で、九月三〇日をもつて理事長ならびに理事の職

<sup>27</sup> 嶋田英誠「文京キャンバス始動に寄せて」『ブロッサム』第二六号、二〇〇九年一月、四頁。

<sup>28</sup> 「シンポジウムの開催」『ブロッサム』第二四号、二〇〇八年一月、一〇頁、「文京キャンバスリニューアル記念シンポジウムレポート」

『ブロッサム』第二六号、二〇〇九年一月、六頁。

「報告事項」『跡見学園報』第四七号、二〇〇九年一月二二日、一一页。

を辞するとの意向を明らかにした<sup>30</sup>。跡見理事長は、退任に当たつて、二二一年という長きにわたった自らの理事長在任期間を「跡見学園の新たな基盤づくりをする期間であった」と位置づけ、次のように述べている<sup>31</sup>。

就任当時、学園は大学、短期大学、中学校高等学校、そして法人事務局という四つの機関がそれぞれ単独に機能し、横の連携が余り見られない状況でした。そのため、週一回行われていた本部連絡協議会（現在の経営会議）の議事録の内容を、すべて包み隠さず公表しました。これによつて、学園の全教職員が学園の向かおうとする方向性を共有できたのです。同時に手がけたのが校舎をはじめとする施設・設備の整備拡充でした。老朽化していた中高の校舎・体育館の全面建て替えを皮切りに、短期大学の体育館再建、大学図書館の設備等々、施設・設備の充実化に取り組んでいきました。

ハード面の整備に一区切りがついたところで、次に手がけたのが大学の学部・学科増設です。開設に当たつては、学外の有識者を招いた「協力者会議」で得られた学園高等教育改革の素

案を基に、平成九年に学園教職員によるプロジェクトチームを立ち上げ、平成十三年まで四年弱にわたり、学園が目指すべき高等教育の姿について様々な議論を尽くしました。その成果として生まれたのが、平成十四年に開設した女子大学初の「マネジメント学部」という社会科学系の学部です。女性の社会進出が活発となり、キャリア志向の女子大学生が増えてきたこと、実社会で求められるマネジメント能力が身に付くことなど、学問内容が社会の趨勢や時代の要請に合致したこともあって、現在では文学部に負けないほどの志願者を集めるために成長しました。

その後も学科の拡充を図り、今春には文学部に現代文化表現学科が、マネジメント学部には観光マネジメント学科が開設予定となっています。この結果、女子大学は当初の文学部のみの単科大学から二学部七学科を持つ総合大学へと発展致しました。

一方、短期大学は女子の四年制大学志向の中で年々志願者が減少し、その存在価値が問われるようになつて参りました。こ

<sup>30</sup> 「跡見純弘理事長の辞任について」『跡見学園報』第四九号、二〇一〇年一月二二日、三頁。  
<sup>31</sup> 跡見純弘「理事長退任によせて」『ブロッサム』第二八号、二〇一〇年一月、二頁。

うした社会的背景を受けて、本学でも平成十九年三月をもつて短期大学部を閉学し、短期大学部の学問的資産を大学の新学科に生かすことに致しました。

跡見理事長は、情報公開を率先して進め、表2にみるように女子大学の学部学科の増設に着手した。こうして跡見学園女子大学は、文学部のみの單科大学から大学院二研究科・三専攻（修士課程）、および二学部七学科を擁する総合大学へと発展したのである。

跡見純弘の後任として理事長に就任したのは、常務理事の山崎一穎であった。山崎が理事長に就任したのは二〇〇九年一〇月一日であつたが、すでに女子大学の学長や中学校高等学校長を経験しており、理事長にふさわしいキャリアを備えていた。また、跡見純弘前理事長の信頼も厚かつた。

山崎は、理事長就任にあたつて、「跡見理事長の実績の上に立て、私学としてのガバナンスを強化しつつ、今後、教育の質向上ということに一段と力点を置いた学園の改革改善に取り組んでいく所存である」と述べ、跡見学園の当面の課題として次のような問題をあげた<sup>32</sup>。

① 女子大学の文京キャンパスを以て、東京の大学に登記するための条件整備をします。

② 女子大学の新座キャンパス一号館は五〇年の耐久年数が指呼の間にあります。建て替えをどうするか財務状況を含めて検討します。

③ 学生寮をどうするか。これも課題です。

④ 中学校高等学校に求められていることは、生徒に基礎学力をつけ、高等教育機関へ進学させることです。保護者の付託に応えるためには、面倒見がよく、指導力のある教員が求められます。その「教師力」をどう付け、どう高めるか、その養成のために経営側からどう助力、援助出来るか検討します。「教師力」こそ「学校力」になるはずですから。

⑤ 中学校高等学校の校舎のメンテナンスに配慮します。

⑥ 大学は自己点検・評価を実施しています。法的に義務付けられましたが、中学校高等学校は、まだ実施していません。これは早急に対応しないと補助金の減額を受けることになりかねません。法人としても、自己点検・評価がなされ

<sup>32</sup> 「山崎一穎理事長就任挨拶」『跡見学園報』第四九号、二〇一〇年一月二二日、六〇七頁。

なければならぬと考えます。その点検・評価のしくみについては、さらに考えなければなりません。

以上のような課題を達成していくには、長期的な視点で学園の進むべき方向性を描くマスター・プランを作成する必要があった。山崎は、そのための検討委員会を早急に立ち上げると約束した。そして、「顧客の満足度を高めるための教育環境のさらなる整備充実に向けて、改革を先導していくことが理事長たる私の務めだと肝に銘じています」と決意を新たにした<sup>33</sup>。

表2 跡見学園女子大学の学部学科設置状況

年	事項
1965	跡見学園女子大学文学部国文学科・美学美術史学科を設置
1967	文学部英文学科増設
1974	文学部文化学科増設
1995	跡見学園短期大学を跡見学園女子大学短期大学部に名称変更
2002	文学部国文学科・美学美術史学科・英文学科・文化学科を改組して人文学科を設置／文学部に臨床心理学科を増設／マネジメント学部マネジメント学科を新設
2005	跡見学園女子大学大学院人文科学研究科日本文化専攻・臨床心理学専攻を設置
2006	文学部にコミュニケーション文化学科、マネジメント学部に生活環境マネジメント学科、大学院マネジメント研究科にマネジメント専攻を増設／文学部美学美術史学科を廃止
2007	文学部国文学科・英文学科・文化学科を廃止／短期大学部を廃止
2010	文学部に現代文化表現学科、マネジメント学部に観光マネジメント学科を増設
2011	跡見学園女子大学の本部を文京キャンパスに移転
2015	マネジメント学部観光マネジメント学科を改組し、観光コミュニティ学部観光デザイン学科・コミュニティデザイン学科を設置
2018	文学部臨床心理学科を改組し、心理学部臨床心理学科を設置
2020	マネジメント学部観光マネジメント学科を廃止

出典：『跡見学園報』第74号、別冊、2022年、3~4頁。

## 山田徹雄の学長就任

山崎新理事長誕生翌年の二〇一〇年四月、マネジメント学部教授の山田徹雄が女子大学学長に就任した。山田は、一九七九年四月に女子大学文学部に専任講師として着任、八二年に助教授、八八年に教授に昇任し、二〇〇六年からは副学長を務めていた。山田は、一八歳人口が減少し続け各大学が志願者獲得をめざしてしのぎを削る「大学間競争」が激しさを増しているという現状を認識しながらも、女子大学の在り方について次のように述べていた<sup>34</sup>。

私はこれから跡見学園女子大学では、社会的要請に応えつつアカデミズムを大切にする教育（これを「教養実践」と呼ぼう）の修得に重点を置きたいと思っています。それによって、社会人として恥ずかしくない一定レベルの教養と知識を備え、一人の女性として社会の中で生きていける、同時に自分を律することができる“自律し、自立した学生”を育て、社会に送り出すこと。それこそが、大学本来の使命と位置づけ責務を全うしていきたいと考えています。

女子大学は、山田が学長に就任した二〇一〇年四月には文学部に現代文化表現学科、マネジメント学部に観光マネジメント学科を開設し、跡見学園女子大学の学部・大学院は表3のような構成となつた。前者は現代日本のカルチャーを学び創造できる人材を育てる学科、後者は観光とホスピタリティを学び観光ビジネスの発展に貢献できる人材を育てる学科ということができる。両学科とも、前任の嶋田英誠学長のもとで構想・申請されたものであった<sup>35</sup>。

現代文化表現学科は、現代社会の中で生み出される文化表現を教育・研究の対象とし、理論的・歴史的・社会学的・実践的な手法で理解する。すなわち、同学科が目的とするところは、映画・映像、舞台芸術、写真、ファッショング、ポピュラー音楽、現代文学など、文化表現に関する幅広い教養と実践的な知識を備え、現代社会における文化創造の発展に寄与できる人材を養成することである。二〇一〇年一月には、同学科の開設記念シンポジウム「表現することと発信する力を育てる女性へ」が開催された。

二〇〇八年一〇月には観光庁が発足し、観光立国への取り組みが

<sup>34</sup> 山田徹雄「学長就任のご挨拶」『ブロッサム』第二十九号、二〇一〇年七月、一頁。  
<sup>35</sup> 「決定及び報告事項」『跡見学園報』第四七号、二〇〇九年一月二二日、四〇五頁。

<sup>36</sup> 「入学志願者数」『跡見学園報』第五〇号、二〇一〇年七月一五日、二九頁。

本格化した。観光マネジメント学科は、こうした政府の政策をみながら開設されたのである。地域の風土、歴史、文化、自然環境などに関する深い理解と認識のもとに、観光資源を発掘・調査し、地域の発展を促進する人材を養成しようとするものである。二〇一〇年一二月には、観光マネジメント学科開設記念シンポジウム「観光立国日本 跡見流こだわり旅を考える」を開催した。

初年度から、現代文化表現学科は二六七名、観光マネジメント学科は一七五名の志願者を集めた<sup>36</sup>。こうして、両学科とも志願者獲得をめざす「大学間競争」には一定の役割を果たすことができたといえよう。

表3 2010年4月の大学院・学部構成

	研究科／学部	専攻／学科
大学院	人文科学研究科	日本文化専攻（修士課程）／臨床心理学専攻（修士課程）
	マネジメント研究科	マネジメント専攻（修士課程）
学 部	文学部	人文学科／現代文化表現学科／コミュニケーション文化学科／臨床心理学科
	マネジメント学部	マネジメント学科／生活環境マネジメント学科／観光マネジメント学科

## 「大学教育・学生支援推進事業」に採択された女子大学の就職活動支援

同企業説明会を開催した。

文部科学省は、二〇〇九年度から「大学教育・学生支援推進事業」（学生支援推進プログラム）を実施した。これは、就職支援体制の強化を図る大学等の取り組みから、達成目標が明確で効果の期待できるものを選定し、広く社会に情報を提供するとともに重点的な財政支援を実施し、学生の就職率の向上やキャリア形成を促進することを目的とした事業であるが、女子大学の申請した「地域協働キャリア支援による自立自尊の女性育成プロジェクト」が採択された。

この取り組みでは、地域と連携しつつ大学での職業指導を通じて学生自身が「将来の夢」や「やりたいこと」をイメージしながら自らの生き方を見つけられるよう支援をしてきたが、二年間の活動の概要はほぼ次のようにあった<sup>37</sup>。

女子大学では、就職希望率、就職内定率、卒業生進路掌握率を上げることを重視した就職活動支援を実施しているが、二〇〇九年度にはそれぞれ八〇%、九二%、一〇〇%であった。

### 東日本大震災と跡見学園

未内定者の進路を早急に確保することを第一の目的とした。具体的には、面接対策講座、グループディスカッション対策講座、筆記試験対策講座といった短期集中就職対策講座や合

<sup>37</sup> 大野二朗 「「地域協働キャリア支援による自立自尊の女性育成プロジェクト」中間報告」『ブロッサム』第三〇号、二〇一一年一月、九頁。

地方から関東地方にかけての太平洋沿岸では波高一〇メートル以上の津波が押し寄せ、東京電力福島第一原子力発電所が大きな被害を受け、放射性物質が漏れ出すという深刻な事態が生じた。首都圏では交通機関が麻痺し、多くの帰宅困難者が生じた。

女子大学は卒業判定や進級判定を終え、春休みに入っていたので新座キャンパスに登校している学生の数も少なく、地震による直接的な人的被害はなかつたが、帰宅困難者が発生した。文京キャンパスでも、女子大学の学生のほか中学校高等学校の生徒二〇〇名ほどが帰宅困難者となり、女子大学二号館のブロッサムホールで一夜を明かすことになった。また、女子大学では翌三月一二日に「東北地方太平洋沖地震発生について」という緊急通知を、ポータルを通じて発信し、「このたびの東北地方太平洋沖地震により甚大な被害を受けられた皆様に心からお見舞い申し上げます。跡見学園女子大学の学生の皆様は、ご本人、ご家族、友人の情報を寄せください」と、学生の被災情報の収集に乗り出した。

文京キャンパスは計画停電の範囲から除外されたが、新座キャンパスが計画停電の対象となつた。そこで、新座キャンパスへの学生

の入構を禁止し、三月二三日に予定されていた卒業式を大学、大学院ともに中止にした。翌日の謝恩会、三月二七日開催予定の桜祭りなどの諸行事も順次中止となつた。四月三日の入学式は、会場を新座キャンパスから文京キャンパスの跡見講堂に変更して実施した。そして、新年度の授業開始日を四月六日から一ヶ月ほど遅らせ五月六日とした。健康診断は実施したが、オリエンテーションは延期し、マネジメント学部の新入生を対象とするATOMIアカデミア（入学時の宿泊型学外実習）は中止とした。

なお、跡見学園では東日本大震災後の二〇一二年三月、全校舎および建物の安全性・耐震性の検査を実施した。その結果、校舎については十分な安全性と耐震性を備えており、特に建て替えの必要はないとの診断された。ただし、一九六五年の女子大学開学時に建設された新座キャンパスの一號館については、何度か増築してきたため四階および五階にいくつかのつなぎ目があり、地震の際に大きな負荷がかかる恐れがあるとの報告を受けた。そこで一号館の耐震工事を実施し、秋学期が始まる前の九月下旬に完了した<sup>38</sup>。

<sup>38</sup> 「校舎の耐震工事が完了しました」『ブロッサム』第三四号、二〇一三年一月、一一頁。

## 女子大学の地域貢献活動

女子大学は「地域に開かれた大学」をめざし、大学の有する教育・研究資源を活用して積極的に地域社会への貢献をはかつてきた。二〇〇八年には新座市、二〇一一年には文京区と相互協力に関する包括協定を締結した。これは女子大学の学術研究の発展、大学の所在する新座市や文京区の施策の充実のため相互に協力し、互いの活動の交流を図り、人材の育成と地域社会の発展に寄与することを目的にしていた。この包括協定にもとづき、女子大学のマネジメント学部生活環境マネジメント学科が二〇一一年一月に開催された「文京博覧会二〇一一」（「ぶんぱく」）に出展し、同年一二月には文京区との共催事業として山崎一穎理事長による「森鷗外講演会」を実施した<sup>39</sup>。

また、東日本大震災後の二〇一二年七月には、かねてからマネジメント学部のインターナーシップを通して交流のあつた福島県会津若松市とパートナーシップ協定を結んだ。会津若松市では、マネジメント学部観光マネジメント学科の学生たちが毎年インターナシ

ップを行ってきた。そんな縁もあり、東日本大震災によって甚大な被害を受けた同市の復興に「観光支援」という立場でかかわっていくことになった。具体的には、旅行会社と提携し、地元で活躍する女性にスポットをあてた「人物観光」ツアーや提案したり、景観の回復を目指して桜の木を贈るなどした<sup>40</sup>。なお、新座市や和光市とも「協力に関する包括協定」を締結し、防災、国際交流、地域コミュニティの発展など幅広い分野で協力することになつてている。

ところで、副学長の大塚博によれば、女子大学では地域連携・地域貢献活動を始める際は、「学生が地域の中で生き生きと動くことができるか」という点を重視してきたという。学生が自らの意思で企画し、積極的に溶け込んで主体的に活動してこそ、地域にとっても学生にとつても得るところが大きいと考えられるからである<sup>41</sup>。

文京区とは、二〇一二年九月七日に「災害時における母子救護所の提供に関する協定」を締結した。東日本大震災を経験して、女子大学として地域社会にどんな貢献ができるかを考えた結果、災害発生時に女子大学文京キャンパスの二号館三階フロア全域を開放し

<sup>39</sup> 内山康和「大学は文京区との連携を進めて参ります」『ブロッサム』第三二号、二〇一二年一月、一二頁。

<sup>40</sup> 「会津若松市の観光支援」『ブロッサム』第三四号、二〇一三年一月、四頁。

<sup>41</sup> 大塚博「『学生が主役』の地域貢献を推進」『ブロッサム』第三四号、二〇一三年一月、三頁。

て妊産婦や乳児を受け入れ、医師や助産師のいる相談室を設置する

とともに粉ミルクを備蓄しておき、妊産婦や乳児をサポートすることにしたのである<sup>42</sup>。実際に、二〇一三年九月には、東京都助産師会と共同で、災害時における妊産婦の受け入れを想定した母子救護所の設置訓練を、文京キャンパスで行つた。震度六強の首都直下型地震が発生したという想定のもとに、母子の待機スペース、子ども遊び場、診断・処置・分娩などのための医療スペース、感染症対策のための隔離スペース、ナースステーション、受付などを設置し、妊産婦の方々をケアできる環境を迅速に整えられるかを検証した。

女子大学の学生たちも、サポートスタッフや妊産婦役として訓練に参加した<sup>43</sup>。

二〇一二年に文京区が森鷗外生誕一五〇年を記念して森鷗外記念館を開館したさいには、映像制作の協力、講演会「鷗外の都市（東京）改造論」の共催、「跡見卒の鷗外夫人と鷗外宛年賀状で見るく森鷗外展」や「朗読コンテスト」などを文京区と共催した<sup>44</sup>。二〇

一四年四月には、「シニアプラザ」プロジェクトがスタートした。

これは文京区と同区内にキャンパスを構える大学の協働事業で、学生や教職員が地域の高齢者との交流を通して高齢になつても心身ともに元気に過ごせる地域づくりをめざすというものである。女子大学では、「シニアプラザ」のプレ事業として、同年三月二九日に新座キャンパスで開催された桜まつりに文京区高齢者クラブ連合会の会員の方や、文京区の担当課職員の方を招き、同事業に積極的にかかわっていった<sup>45</sup>。

### 跡見ギャラリー、ATOMIさくらームの開設

二〇一三年四月三〇日、女子大学は茗荷谷交通ビル一階に、文京区との地域連携施設の一つとして「跡見ギャラリー」を開設した。跡見ギャラリーは、跡見学園と文京区の情報発信や文化活動の場として活用され、「地域の活性化」と「公共の福祉」に資することを目的とし、跡見学園に関する展示（跡見学園の歴史や跡見花蹊の作

<sup>42</sup> 「災害時の妊産婦・乳児受け入れ」『ブロッサム』第三四号、二〇一三年一月、三頁。

<sup>43</sup> 「妊産婦受け入れを想定した、母子救護所設置訓練を実施」『ブロッサム』第三六号、二〇一四年一月、二頁。

<sup>44</sup> 「朗読コンテストを開催」『ブロッサム』第三四号、二〇一三年一月、四頁。

<sup>45</sup> 「高齢者と学生が交流するシニアプラザがスタート！」「三月二九日（土）に桜まつりを開催！」『ブロッサム』第三七号、二〇一四年七月、三～四頁。

品など）のほか、女子大学の学生や文京区民のさまざまな作品を展示することになっている。そのほか、女子大学教員による講座の開催なども計画されており、跡見ギャラリーは跡見学園と文京区の情報発信を担うとともに文化活動の拠点となる、区民に開かれた教育複合施設といえる<sup>46</sup>。

なお、二〇一六年六月、跡見ギャラリーでは中学校高等学校生徒による「企画展」アトミ・アート2016×中学校高等学校の織維工芸作品展が、八回目を迎えた女子大学の「アトミ・アート展」と同時に開催された。画家でもある中学校高等学校長の杉本昌裕（文学部人文学科教授）の作品も展示された<sup>47</sup>。

茗荷谷交通ビルの二階には、心理教育相談所文京分室「ATOM Iさくらルーム」を開設した。さくらルームでは「心のケア」の地域拠点を目指して、子育て支援や育児の悩みに関する相談活動を行ったり、「不登校を考える親の会」やシニアの「コミュニケーションルーム」を開催したりしている。さくらルームには、子どものプレイルームや面談室も設置されている<sup>48</sup>。

こうしたなかで、女子大学は観光と地域社会をつなぐコミュニケーションを「元気にする」学部を構想し、二〇一五年四月に観光デザイン学科（入学定員一一〇名）とコミュニケーションデザイン学科（同八〇名）の二学科からなる観光コミュニケーション学部を開設した。副学長の大塚博は、観光コミュニケーション学部が観光とコミュニケーションを柱に構想された事情について、「観光を柱のひとつとしたのは、先に開設した観

## 観光コミュニケーション学部の開設

女子大学では、二〇一〇年四月にマネジメント学部に観光マネジメント学科を増設したが、二〇一二年に東京でオリンピックを開催することが決まったこともあって観光の人気が高まり、同学科は志願者を多く集めていた。一方、女子大学は従来から大学が所在する東京都文京区および埼玉県新座市と連携をはかり、コミュニケーションの一員として大学の有する教育・研究資源を生かした地域連携に取り組んできた。東日本大震災後は、そのことの重要性をますます認識するようになっていた。

こうしたなかで、女子大学は観光と地域社会をつなぐコミュニケーションを「元気にする」学部を構想し、二〇一五年四月に観光デザイン学科（入学定員一一〇名）とコミュニケーションデザイン学科（同八〇名）の二学科からなる観光コミュニケーション学部を開設した。副学長の大塚博は、観光コミュニケーション学部が観光とコミュニケーションを柱に構想された事情について、「観光を柱のひとつとしたのは、先に開設した観

<sup>46</sup> 「跡見ギャラリー、オープン」「ブロッサム」第三五号、二〇一三年七月、二頁。

<sup>47</sup> 「跡見ギャラリーにて「企画展」アトミ・アート2016×中学校高等学校の織維工芸作品展」を開催」『ブロッサム』第四一号、二〇一六年七月、四頁。

<sup>48</sup> 「心理教育相談所の文京分室を開設」『ブロッサム』第三五号、二〇一三年七月、二頁。

光マネジメント学科が受験生の人気も高く、意欲的な学生が数多く入学していることから、これをさらに強化していくこうという狙いがありました。コミュニティをもう一方の柱としたのは、東日本大震災以来、地域というものに対する考え方が大きく変わったこと、本学がキャンパスを置く文京区や新座市はじめ、さまざまな地域との連携に力を入れるようになっていることなどから、地域というものの研究に本腰を入れて取り組むべきだと考えたからです」と説明している<sup>49</sup>。

観光コミュニケーション学部の扱う「コミュニティ」とは、都道府県や市町村などの自治体だけではなく、人の集まるすべての「場」を意味している。そのコミュニティの中で、観光デザイン学科ではさまざまなお観光資源を発見し、それを内外に発信できる観光デザイン能力を養い、コミュニケーションデザイン学科では地域を活性化するプロジェクトを構想・デザインする能力を身につけることをめざしている<sup>50</sup>。山崎一穎理事長は、観光コミュニケーション学部開設の意図について次のように語っている<sup>51</sup>。

観光コミュニケーション学部設立の背景には、このような経緯がありました。

観光コミュニケーション学部は、観光立国日本の将来を担う人材を育成する「観光デザイン学科」、地域コミュニケーション創成のリーダーを育てる「コミュニケーションデザイン学科」の二学科で構成されます。とともに、地域が主体となって新しい社会や文化を生み出すために、中心となつて活躍できる女性を社会に送り出すのが目標です。

観光コミュニケーション学部の開設以後、女子大学の地域連携活動は

<sup>49</sup> 大塚博「常に時代の一步先を行く跡見学園」『ブロッサム』第三七号、二〇一四年七月、五頁。

<sup>50</sup> 大塚博「常に時代の一歩先を行く跡見学園」『ブロッサム』第三七号、二〇一四年七月、六頁。「観光コミュニケーション学部」二〇一五年四月開設!」『ブロッサム』第三八号、二〇一五年四月、八頁。

<sup>51</sup> 同前、一頁。

ますます活発となつた。女子大学は、二〇一六年四月一九日に群馬県長野原町と地域活性化、地域研究および地域における人材の育成などを目的とする包括協定を結んだ。跡見学園は、長野原町北軽井沢に北軽井沢研修所をもつており、長野原町は文京区、新座市に次ぐ第三のキャンパスともいべきところであつた。調印式に出席した長野原町の萩原睦男町長は、「地域を盛り上げるには、女性の力とアイデアも大きなポイント、この協定が形だけのものに終わらないように、ビジョンをもつて取り組みたい。共に手を携えて、明るい未来に向かつて歩んでいくことをお約束します」とあいさつをした。山田学長は、「本学では二〇一五年に観光コミュニケーション学部を開設し、そのもとに地域研究を進める学科も設置しました。グローバル化が進めば進むほど、コミュニケーションの重要性は増していきます。そういう意味で、本学の教員と学生がお役に立てたら幸いです」と述べた<sup>52</sup>。

### 心理学部の開設

二〇一八年四月、女子大学に四つ目の学部として心理学部が誕生した。首都圏では心理学部を持つ大学は四校しかないので、女子大学は五校目の心理学部を擁する大学となつた<sup>53</sup>。

心理学部は、スクールカウンセラーの育成を主目的として二〇〇二年に開設された文学部臨床心理学科の一五年にわたる実績を土台に、教育分野だけでなく医療や福祉などの幅広い領域で心理専門職として活躍できる女性を育てることをめざして開設された。二〇一七年に「公認心理師」が国家資格として正式に認められ、心理専門職の社会的地位と信用度が高まつた。心理学部は、公認心理師の育成を教育目標の柱の一つとし、カリキュラムも公認心理師法に準拠していた。なお、心理学部の開設に伴い、大学院もこれまでの臨床心理士とともに、公認心理師試験の受験に対応したカリキュラムに拡充された。臨床心理士の資格は民間資格であるが、公認心理師の資格ができたからといって臨床心理士の活躍する分野が狭まるということではなく、両者は並立していくことになる<sup>54</sup>。

二〇一八年五月二〇日には、心理学部開設記念シンポジウム「

<sup>52</sup> 「長野原町と跡見学園女子大学との相互協力に関する包括協定調印式を開催」『プロッサム』第四一号、二〇一六年七月、一四頁。  
<sup>53</sup> 「心理学部が誕生します!」『プロッサム』第四三号、一四頁。  
<sup>54</sup> 同前、一四〇一五頁。

見学園女子大学と臨床心理学——その未来へ」が文京キャンパスで開催された。元跡見学園女子大学教授で、日本の臨床心理学会で活躍されている平木典子、鶴光代の両氏と学部長の野島一彦がシンポジストとなり、跡見学園と臨床心理学の未来について熱い議論が展開された<sup>55</sup>。

### 女子大学のキャンパス再整備問題

女子大学は、二〇〇八年に文京キャンパスに女子大学二号館が新築されて念願の東京進出を果たしたが、二〇一五年には早くも新座キャンパスをどのように利用するかという問題が発生した。というのは、バブル経済崩壊以来の長いデフレと少子化の中で、学生を確保するため大学の都心回帰という傾向が顕著となつた。近隣の女子大学でも、二〇一四年に実践女子大学が渋谷区東、続いて大妻女子大学が千代田区三番町のキャンパスに拠点を移し、日本女子大学も二〇二一年に文京区白台のキャンパスに全学部を統合した。

跡見学園女子大学では、二〇一五年に新座キャンパスの一號館が築五〇年を迎える、建て替える時期を迎えた。しかし、近年の大学の

都心回帰という状況を踏まえると、一号館の建て替えは文京キャンパスも視野に入れて考えざるを得なくなつた。理事長の山崎一穎は、女子大学のキャンパス再整備に関して次のように述べていた<sup>56</sup>。

大学新座キャンパスの建替えは、文京の地も視野に入れて考える必要があります。文京地区の学園の地籍の再確認と建築上の諸問題（法規上）を洗い出し、文京キャンパスの一號館（短大当時の東館）、体育館をどうするか全学的検討が必要です。

しかも、文京区は高さ制限（四〇メートル）の立法化をはからうとしています。四〇メートルですと八階までが限界です。

大学の教育の主たる機能を仮に文京キャンパスに移した時、新座キャンパスの利用法も同時に考えなければなりません。例えば、新座キャンパス内の合宿所（教育施設と文科省は認めていません）をセミナーハウスとしてゼミ合宿所（これならば教育施設となります）で利用するとか、大学の研究室をどうするか、さらに築二〇年を経過している中高の建替え資金の問題も残ります。夢はいくらでも描けますが、財務が耐えられるかどうか慎重に対応する必要があります。

55 「心理学の未来を討論するシンポジウムが文京キャンパスで開催されました！」『ブロッサム』第四五号、二〇一八年七月、一頁。  
56 『跡見学園報』第五一号、二〇一一年一月二十四日、二〇三頁。

新座キャンパス一号館の建て替えは、文京キャンパスの一號館や体育館をどうするかという問題と合わせて、財務状況と照らし合わせながら考えなければならないというのである。

### 「グローバル人材の養成」と国際交流

跡見学園では、政府の教育再生会議が「グローバル人材の養成」を打ち出す中で、女子大学も中学校高等学校も国際交流を熱心に進めてきた。真のグローバル人材とは語学に堪能なだけでなく、語学を駆使して日本の伝統や文化を海外に発信できる人材、文理のバランス感覚に優れた文理融合型の「国際教養人」である。こうした観点に立って、女子大学においても、中学校高等学校においても国際交流を進めてきた。

女子大学は、日本の伝統文化を通してさまざまな国の人々と交流できる「国際教養人」の育成を目指して「国際交流プログラム」の充実をはかり、二〇一三年四月には「国際交流課」を設置した。かねてからイギリスのスコットランドにある国立スターリング大学、

中国の北京語言大学と協定を結び、夏期語学研修を実施してきた。多くの学生が語学研修に参加し、語学力だけでなく異文化交流のベイスとなる国際感覚を高めてきた。スターリング大学とは、二〇一三年度から七週間の春期語学研修も開始した<sup>57</sup>。

二〇一三年度には台湾の国立高雄餐旅大学と友好協定、キルギス共和国のビシケク人文大学とは学術交流協定を締結した。餐旅大学は観光系の大学で、餐旅とは英語のホスピタリティを意味し、ホテル、レストラン、旅行会社、航空会社などのホスピタリティ業界で活躍する人材養成を目的としている。ビシケク人文大学はキルギス共和国の国立大学で、東洋国際関係学部の中に「日本語日本文学講座」が設置されていた。また、カナダのロイヤルローレス大学とも学生派遣のための協定締結にむけて動き出した<sup>58</sup>。諸外国の大学との交流を進めるとともに、学内では文京・新座の両キャンパスでネイティブ教員と学生が自由に会話を楽しめる「跡見英会話サロン」を設置した。ネイティブスピーカーとの会話を通じて、英会話力の向上を図ることを目的としている<sup>59</sup>。

<sup>57</sup> 「国際交流課を設置」『ブロッサム』第三五号、二〇一三年七月、三頁。  
<sup>58</sup> 「世界とつながる 世界に羽ばたく跡見学園」『ブロッサム』第三六号、二〇一四年一月、三頁。  
<sup>59</sup> 「大学の国際化への取り組み」『ブロッサム』第三六号、二〇一四年一月、六頁。

中学校高等学校でも国際交流が活発となつた。すでにオーストラリア・クイーンズランド州のセント・リタス校と姉妹校提携を結び、夏期語学研修を実施していたが、二〇一五年度からニュージーランド体験留学を開始した。なお、中学校高等学校では、平常の授業でも「英会話教室」「英語特別クラス」を設けて、ネイティブ講師の指導によって語学力の向上を図っている。また、英検やTOEICなどの検定試験対策も行つてている<sup>60</sup>。

### 跡見学園創立一四〇周年・女子大学開設五〇周年記念式典

二〇一五年一月八日、跡見学園は創立一四〇周年を迎えた。また、女子大学は一九六五年に開学しているので、二〇一五年は女子大学の開学五〇周年でもあった。二〇一五年一〇月二十四日、跡見学園創立一四〇周年と跡見学園女子大学開設五〇周年の記念式典および祝賀会が文京キヤンパスの女子大学体育館で盛大に挙行された。跡見学園女子大学は、この年の四月に観光コミュニケーション学部（観光デザイン学科・コミュニケーションデザイン学科）が開設をみた。女子大学は一九六五年の開学以来五〇年を経て、表4にみるように三学部八

学科を擁し、収容定員三八八〇人の首都圏有数の女子大学に発展したのである。なお、臨床心理学科は、既述のように二〇一八年四月に文学部から独立し、心理学部臨床心理学科となつた。

記念式典では、文部科学省顧問佐藤禎一氏、日本私立大学連盟会長清家篤氏から祝辞をいただき、校友会、退職教職員、在学生（代表）とともに開学から五〇年の歩みを振り返り、さらなる発展を誓った。祝賀会では、文京区長成澤廣修氏、SMB日興証券株式会社代表取締役副社長清水喜彦氏から祝辞をいただき、後述するように学園創立一四〇周年・大学創立五〇周年を記念して取得した樋口一葉ゆかりの質屋「旧伊勢屋質店」をジオラマ風に仕立てたもの、森鷗外の「舞姫」直筆草稿を披露した<sup>61</sup>。また、『跡見学園女子大学五十年史』およびそのDVD版が作成された。

<sup>60</sup> 「世界とつながる 世界に羽ばたく 跡見学園」「中高の国際化への取り組み」『ブロッサム』第三六号、二〇一四年一月、三頁、八頁。

<sup>61</sup> 「大学創立五〇周年を祝う式典が盛大に執り行われました!」『ブロッサム』第四〇号、二〇一六年一月、二頁。

「菊坂跡見塾（旧伊勢屋質店）」が文京区指定有形文化財に登録』『プロッサム』第四一号、二頁。  
 「存続の危ぶまれた樋口一葉ゆかりの質店、文京区と連携し、学園が取得・保存』『プロッサム』第三九号、二〇一五年七月、九貞、「旧

表4 女子大学の学部学科構成

学部名	学科名
文学部	人文学科／現代文化表現学科／ コミュニケーション文化学科／臨床心理学科
マネジメント学部	マネジメント学科／生活環境マネジメント学科
観光コミュニティ学部	観光デザイン学科／コミュニティデザイン学科

### 伊勢屋質店と森鷗外「舞姫」直筆草稿を購入

跡見学園は、一〇一五年に跡見学園創立一四〇周年、跡見学園女子大学開学五〇周年の記念事業の一環として、文京区にある国登録有形文化財の「旧伊勢屋質店」（土地一五六・三四平方メートル、建物一五〇・三八平方メートル）と森鷗外「舞姫」の直筆草稿（一八八九年一二月執筆、函書・森於菟（一九三三年一二月））を購入した。旧伊勢屋質店は、一四歳という短い生涯の大半を文京区で過ごした樋口一葉が、家族を養うために通った質店である。幕末の一八六〇年に開業し、土蔵、見世、座敷棟のすべてが明治期の建物で、国の登録文化財となっている。文学史上の史跡としても、幕末・明治期の商家の佇まいを今に残す建築遺構としても貴重な文化財である。跡見学園では、菊坂跡見塾として教育に活用するとともに、一般公開に向けて準備を始めた。なお、旧伊勢屋質店は、二〇一六年三月一日に文京区指定有形文化財として登録された<sup>62</sup>。その後女子大学では、学生有志が「跡見「学芸員」による菊坂」として活動し、地域イベントへの参加や史料の修復、特別展の企画・展示などを行っている<sup>63</sup>。

「舞姫」は森鷗外の代表的な作品であるが、その鷗外直筆の草稿

が二〇一五年三月に国際稀観本フェアに出品されると、跡見学園では早速購入することにした。「舞姫」執筆当時の鷗外夫人であった赤松登志子が跡見学園の卒業生であつたこと、跡見学園の理事長山崎一穎が森鷗外の研究者であつたことなどが、購入の動機となつた。二〇一五年四月二八日、女子大学の多目的ホールで跡見学園・文京区合同記者会見を開催した。跡見学園では、教育・研究に活用するとともに、広く一般に公開することにした。山崎理事長は、「鷗外自身は、自分の原稿が売買されるとは思っていなかつたはずです。これで安らかに眠れるのでは。鷗外の居宅は文京区であり、そのゆかりの地に建つ跡見学園で保存することができてほっとしています」とにこやかに語っていた<sup>64</sup>。なお、鷗外直筆原稿「舞姫」は、二〇一六年八月一日から九月一日まで、文京区立森鷗外記念館で学園が所蔵する他の鷗外関係資料五〇点あまりとともに公開された<sup>65</sup>。

### 女子大学新座キャンパスが「大学の桜の名所」東日本第一位に！

女子大学の新座キャンパスには、ヤマザクラやエドヒガンなど日本に自生する野生種の桜のほか、ソメイヨシノの花が散る頃に見頃を迎えるサトザクラ、秋冬に咲くフユザクラのような珍しい桜もある。女子大学が開学してまもない一九六五年に、高山雄三郎という方が跡見学園の中学校高等学校を卒業して短期大学に進学し、その一年後に夭折された愛娘・千鶴子さんの冥福を祈つて寄贈してくれたもので、京都・嵯峨野の造園業「植藤」（うえとう）の一五代当主・佐野藤右衛門によつて選定・栽培された苗木が育つたものである。「植藤」は、代々仁和寺御室御所の造園を担つてきた由緒ある庭師（造園業者）で、第一四代当主からサクラの育成を手がけ、一五代当主もそれを引き継ぎ「桜守（さくらもり）」として全国的に知られていた。一九三〇年にヤマザクラの新種を発見し、牧野富太郎によつて「佐野桜」と名づけられてもいる。

その後、卒業生などからも寄贈され、二〇一七年には四三種類、

<sup>64</sup> 伊勢屋質店と跡見学園『ブロッサム』第五四号、二〇二三年一月、一〇頁。

<sup>65</sup> 「森鷗外『舞姫』の直筆原稿を購入、一般公開へ向け準備」『ブロッサム』第三九号、二〇一五年七月、一〇頁。

〔学園所蔵〕 森鷗外『舞姫』の直筆原稿が森鷗外記念館にて一般公開されます！」『ブロッサム』第四一号、二〇一五年七月、一〇頁。

一九五本に増え、毎年美しい花を咲かせている<sup>66</sup>。一号館の玄関口から図書館に向かう五〇メートルにも及ぶヤマザクラの並木道は、楚々とした美しさで学生たちの心を和ませてきた。女子大学では、毎年三月下旬に「桜まつり」を実施し、キヤンバスの桜を市民に開放している。その新座キヤンバスの桜が、二〇一六年二月二七日付『日本経済新聞』の「大学の「さくら咲く」名所 歩きたい」ランキングで東日本第一位に輝いた。選者は樹木医、写真家などで、「珍しいサトザクラもあり、桜愛好家は必見の場所」「品種により開花時期が異なるので、長期間楽しめそう」などという評価を得た。テレビでも取り上げられ、三月の「桜まつり」は大盛況となつた<sup>67</sup>。

### 嶋田英誠の中学校高等学校校長就任

山崎一穎は二〇一二年三月に中学校高等学校長の任期を迎えると、同年四月、嶋田英誠が同校長に就任した。嶋田は、一九七九年に女子大学の専任講師として着任して以来、同大学副学長、学長、学園理事などの要職を務め、前任者で理事長の山崎一穎の跡を追うような

経歴を持っていた。嶋田によれば、「私と山崎前校長とは、かつて跡見学園女子大学において、一人三脚で大学改革に取り組んだ「同志」とも言うべき間柄」であった。

嶋田は、山崎が提唱してきた大学進学のための基礎学力の強化と全人教育を踏襲することを表明した。そして、改めて「少子化が進み、学校教育を取り巻く環境はますます厳しさを増しています。その中で、私立女子学校としての存在意義を高め、生徒や保護者の皆様の満足度を高めるべく、教職員一丸となつて教育環境のさらなる向上に全力で取り組んでいく所存です」と抱負を語った<sup>68</sup>。

### 中学校高等学校のグランドデザイン

中学校高等学校では、二〇一四年七月から中高のグランドデザインの作成に取り組んできた。嶋田英誠校長は、二〇一五年三月二四日の理事会、評議員会で中高のグランドデザインを次のように説明した<sup>69</sup>。

近十数年来の跡見学園中学校入学試験の推移をみると、本校

<sup>66</sup> 泉雅博・植田恭代・大塚博『跡見花蹊—女子教育の先駆者—』ミネルヴァ書房、二〇一八年、一二二頁。

<sup>67</sup> 「大学・新座キャンパスが、「大学の桜の名所」東日本第一位に!」『ブロッサム』第四一号、二〇一六年七月、三〇四頁。

<sup>68</sup> 嶋田英誠「校長就任のご挨拶」『ブロッサム』第三三号、二〇一三年七月、一頁。

<sup>69</sup> 『跡見学園報』第六〇号、二〇一五年七月二〇日、一七頁。

は応募者の減少・偏差値の低下という危機的状況下に置かれている。跡見学園中学校高等学校に対する社会的評価を回復するために、過去一四〇年に及ぶ跡見学園の女子教育の長所は踏襲しつつも、二一世紀日本において求められている女子教育の在り方を考え、且つ社会の要請に応えるべく、跡見学園中学校高等学校グランドデザインを構築した。

すなわち、高度な知識と人間性を備え、社会に積極的に参画する自律し自立した女性をこれからも育成していくには、ダイナミックに変化する社会情勢やグローバル化に対応する教育の実践が不可欠だと考えたのである。そこで、中学校高等学校では「ATOMI FUTURE CREATION」（「未来創造」）をスローガンに掲げ、新しい教育プロジェクトを推進していくことを決断した。中学校高等学校では、この改革を学園内外に印象付けるために、「世界に羽ばたく浪漫（ロマン）ある人材を養成する新しいプロジェクト」と位置づけ、「跡見新ロマン派宣言。」を制定した<sup>70</sup>。

この教育プロジェクトの一一本柱は、「習熟度別クラス」の導入と真の学力を育成する「学力・人間力育成プロジェクト」である。こ

れを実施することによって中高六年間の間に生徒全員の偏差値を二〇ポイントアップさせ、早慶上理・ICUに一〇〇名以上、GM ARCHなどの難関私大に二〇〇名以上の生徒が合格できる進学校になることを目指すというのである。

習熟度別クラス編成については、まず生徒募集の際に「KAKEI INDEPENDENT CLASS」「ATOMI PRINCIPLED CLASS」の一クラスに分けて募集する。INDEPENDENTは自立を意味し、トップクラスの大学に現役合格する」とを目指す。「PRINCIPLED」は「信念ある人」を意味し、中高の教育理念である「皿」と「手と」「心と」を働かせて、「思う人」から「考える人」になる」とを目指す。学力に自信があれば、入学後中一、高一、高二の学年開始時に「ATOMI PRINCIPLED CLASS」からの「KAKEI INDEPENDENT CLASS」に替わりて、より高い目標に向かつて学習する」とができる。

また、この教育プロジェクトでは、二〇一〇年度から大学入試が面接や小論文、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなど、学力試験以外の選抜方法を重視する方向に変わっていくに対応するため「IB型教育推進委員会」を立ち上げ、「コミュニ

<sup>70</sup> 『跡見学園報』第六二号、別冊、二〇一六年七月二〇日、一二頁。

ケーション能力」「コラボレーション能力」「イノベーション能力」の向上をはかり、大学入試の変化に対応できる高い学力を育成していくことをめざしている。すなわち、中学校の三年間では「学習法指導」「授業改善」「学習相談」を充実させて基礎学力を徹底的に養い、高等学校では大学受験に向けた実践的な学力を確実に向上させるというのである<sup>71</sup>。

### 中学校高等学校の制服を一新

中学校高等学校では、学園創立一四〇周年を機にグランドデザインの作成に取り組み、教育課程の再編、教育施設・設備の拡充を図ったが、それに合わせて制服も一新した。新制服をデザインしたのは、第二五回毎日ファッション大賞新人賞、資生堂奨励賞などを受賞し、日本ファッション界の牽引者の一人とされているデザイナーの廣川玉枝氏である。廣川氏は、新制服について次のように語っている。

新制服のテーマは『過去・現在・未来を繋ぐ』です。新制服

新制服は、このように紫紺色やジャンパースカートなど、色彩や形の伝統のほか、アーティストとしての花蹊の美意識も意識してデザインされた。素材の軽量化や環境にも配慮し、手足の長い現在の子どもたちの身体的特徴も考慮され、全体的に軽やかなイメージの制服となつた。新制服は、二〇一六年度の春から中学一年生に、二〇一七年度から高校一年生に適用された<sup>72</sup>。

### 杉本昌裕の校長就任と習熟度別クラス編成

嶋田校長は、二〇一六年度入試でIクラス・Pクラス別入試を実

<sup>71</sup> 「『跡見 新ロマン派宣言』！」（跡見学園中学校高等学校グランドデザイン本格始動）『ブロッサム』第三九号、二〇一五年七月、一一四頁、「校長×副校长対談 新教育プロジェクトとともに 新しい一步を踏み出して」『ブロッサム』第四一号、二〇一六年七月、一一一二頁。

<sup>72</sup> 「学園創立一四〇周年を機に 中学校高等学校の制服を八五年ぶりに一新！」『ブロッサム』第四〇号、二〇一六年一月、三〇四頁。

をデザインするにあたり学園内を拝見したのですが、作法室や舞台があつたり、茶道や箏曲などの授業もあり、学祖の花蹊先生が築いた教育が現在もたくさん残っています。また、花蹊先生は前衛的で、女性として高い美意識を持った意思の強い人。

自立した女性を育てたいという思想を持っていた方です。私はそういった学園が大切にしてきた伝統や意識を未来に繋げたいという思いを込めて制服をデザインしました。

施したが、同年四月には跡見学園女子大学の杉本昌裕教授が同学園中学校高等学校の校長に就任した。杉本は、嶋田校長のもとで作成された新教育プロジェクトを「真の学力の習得を目指す」ものと位置づけ、それを前提に「私はこのプロジェクトで、単にIQを伸ばすための学力ではなく、「EQ」、すなわち他者の感情を理解し、自分の心を制御できる”心の知能指数”を「高めることを目指したい」と語った<sup>73</sup>。

杉本が校長に就任した二〇一六年度から、中学校高等学校では一学年二七〇名の生徒のうち七〇名をIクラス、二〇〇名をPクラスとする習熟度別クラス編成が始まった。Iクラスは国公立大学をはじめとする難関大学をめざすコースで、英語と数学の授業時間がPクラスよりも一時間ずつ多くなっている。Pクラスは、基礎・基本を繰り返し学ぶことで、苦手な科目であっても前向きに取り組む姿勢を涵養することをめざしている。

Pクラスの違いを次のように説明した。

クラス設定にあたって、スピードを表す「進度」、深さを表す「深度」という二つについて考えました。前者の進度、すなわち学習の進み具合に関してはIとPで差をつけず、学習の深さ、深度の面でIクラスはより掘り下げた学習を行っています。

例えば、数学では応用問題をただ数多くこなすのではなく、グループ分けをして、教師は解法を示さず、グループ内で考えさせる。生徒はその結果を全員の前で発表し、どの解法が良いのかディスカッションするといったように、グループでの学び合い、教え合いを通して学習を深めていくことを狙いとしています。英語も、音をテーマに、音読したり、歌つたりすることでも、英語における音の重要性を学んだりと、各教員が工夫を凝らした授業を進めています。

このようにしてIクラスで培ったノウハウを、Pクラスの授業にも活かしています。

杉本昌裕校長、和田俊彦副校長は、森上教育研究所の森上展安所長を招いて習熟度別クラス編成に関する座談会を催した。座談会で、和田副校長は「進度」と「深度」という言葉を使って、Iクラスと

和田の説明を聞いて、森上所長は「丁寧な学習指導が行われていることがよくわかります」と述べ、「グループで協調して作業を行

<sup>73</sup> 杉本昌裕「校長就任のご挨拶」『ブロッサム』第四一号、二〇一六年七月、一頁。

うといった授業は、準備にも、事後学習にも時間がかかる。しかし、そうした丁寧できめ細かい授業をきちんと行っていることは、文部科学省の言う「思考力・判断力・表現力」として必ず実を結ぶと思います」と評価した<sup>74</sup>。

二〇一七年度入試では、中学校高等学校の志願者が大幅に減少したので、杉本校長は二〇一八年度入試からIクラスで「思考力入試」（漢字力・計算力と思考力）、「英語コミュニケーションスキル入試」（漢字力・計算力と英語筆記、英語面接）を実施し、志願者数を上向かせた。

### 「私たちの身のまわりの環境地図作品展」で中高生が入賞

二〇一七度の第二七回「私たちの身のまわりの環境地図作品展」で、本学中学一年生の二名が入賞した。「私たちの身のまわりの環境地図作品展」は、北海道教育大学旭川分校地理学教室に本部を置く環境地図教育研究会が一九九一年から実施している。作品は、身のまわりの環境について調査したり、観察したりしたことを地図に

したもので、毎年海外からも応募のある世界規模の作品展である。第二七回作品展は二〇一七年一〇月に審査され、国内からは四五校、一〇六八点の応募があり、予備審査を通過したのは小学校三八点、中学校六二九点、高等学校六六点、海外二点、計七三五点で、このうち一〇〇点が入賞した<sup>75</sup>。

入賞者の一人は、大田区に点在する遺跡を実際に歩き回り、それを写真と文章で表現した「大田区の遺跡を知りたい！」という作品を仕上げ、「国土地理協会会長賞」を受賞した。また、もう一人の入賞者は、台東区の観光スポットやイベントを外国人にもわかるようイラストと文章でまとめ、「ようこそ台東区 (Welcome to Taito)」という作品を制作し、「地図調製技術協会会長賞」を受賞した<sup>76</sup>。

中学校校と学校の生徒たちは、その後も「私たちの身のまわりの環境地図作品展」に積極的に応募し、ほぼ毎年のように「国土地理協会会長賞、IGU—CGE（国際地理学連合—地理教育委員会）議長賞などの栄誉ある賞を受賞し続けている。

<sup>74</sup> 「中高教育改革進行中！～跡見学園中学校の今とこれから～」『プロツサム』第四三号、二〇一七年七月、三〇六頁。

<sup>75</sup> 環境地図教育研究会「私たちの身のまわりの環境地図作品展」<https://www.environmentalmap.org/>

<sup>76</sup> 第二七回「私たちの身のまわりの環境地図作品展で二名の跡見生が入賞しました！」『プロツサム』第四四号、二〇一五年一月、二頁。

## 笠原清志の女子大学学長就任

一一〇一八年四月、山田徹雄学長の後任にマネジメント学部教授の笠原清志が就任した。笠原は社会学を専門とし、大学教員として豊富な経験を有していた。学長就任にあたって、「大学の知を中高に還元し学園全体の活性化を図る」だけでなく、「目に見えないカリキュラム」の充実を図るべきだとして以下のように述べた<sup>77</sup>。

確かに、大学は人材の宝庫ですから、それを中高にも還元しない手はないと思います。中高には大学の専門の知や人材をもつと活用していただきたいし、それが跡見中高の大きなアドバンテージにもなるでしょう。

大学には「目に見えるカリキュラム」と「目に見えないカリキュラム」があり、前者は学部・学科の新增設などによって充実してきました。今後は、海外の大学や研究機関、企業、地域などとの連携をより積極的に推進し、「目に見えないカリキュラム」の充実を図っていきたいと考えています。そうすることでも、学生の知的好奇心を刺激し、一歩踏み出す勇気をサポートしていきたいと思っています。

笠原は、その在任中一貫して「目に見えないカリキュラム」の重要性と必要性を唱え、校務を務めた。

## 松井真佐美の中学校高等学校長就任

一二〇一八年四月、松井真佐美が中学校高等学校の校長に就任した。松井は跡見学園中学校高等学校の出身で、数学の教師であった。日頃の授業や行事を通じて生徒と過ごしてきたので、内外の学校説明会で「現場の声」を率直に受験生や保護者、塾関係者に伝えることができた。松井の学校説明会などの発信は好評で、参加者も徐々に増加した。

入試制度も工夫し、新たに導入した国語重視型入試は塾などの教育関係者からも好評であった。一一〇一二年度入試ではIクラス・Pクラス別の募集を止め、二月一日午前に一般入試第一回（募集人員七〇名）、同午後に特待入試第一回（同五〇名）、二月二日午前に一般入試第二回（同六〇名）、同午後に特待入試第二回（同四〇名）、二月四日前特待入試第三回（思考力入試・英語コミュニケーション入試、同二〇名）のほか、二月五日前特待入試第四回（同二〇

<sup>77</sup> 「新学長、新校長、大いに語る！」『ブロッサム』第四五号、二〇一八年七月、六頁。

名)、帰国生入試（募集人員一〇名）を実施した。

一一〇二二年度からは、これまで跡見学園の北軽井沢研修所（群馬県吾妻郡長野原町）で実施してきた中学一年生の「自然教室」を、「サイエンス探究教室」と名称を変更して実施することになった。「自然教室」は、一九五五年度に「理想郷」といわれた千葉県勝浦町（現・勝浦市）の鵜原に建設された跡見学園の鵜原寮で開始され、二〇〇七年度に鵜原寮が閉寮となつたのに伴い、宿泊地を北軽井沢の跡見学園研修所に移して実施されてきた。この「自然教室」を二〇一二〇年度に「サイエンス探究教室」に変更する予定であったが、コロナ禍のため二年遅れての実施となつた。一泊三日の宿泊行事であるが、生徒たちに「今日、私たちのまわりにはあまりにも人為的なものが多すぎないであろうか」と問題を投げかけ、「私たちはしばらくの間都会を離れて自然の中で生活し、生活の喜びは自分で努力して作り出さなければならないことを知りたいものである」と、北軽井沢で生活することの意義を説いている<sup>78</sup>。

松井校長のもとで、生徒の課外活動も活発になつた。一一〇〇年

二月一六日、東京私立中学高等学校協会の主催する「第五九回生徒理科研究発表会」が府中の明星中学校・高等学校で開催された。跡見学園中学校高等学校の科学部中1チーム六名が参加し「牛乳と酢で作ったプラスチック」というテーマで発表した。SDGsやプラスチックごみの問題などに触発されて、日常生活の中でもよく使われる「酢」と「牛乳」からプラスチックをつくり、それが土中でどのくらい分解されるかを調べたものである。発表した生徒によれば、酢で牛乳の成分が固まってプラスチックができ、使用後湿った土の中に埋めるとボロボロに分解されることがわかつたが、プラスチックの強度は弱く柔軟性もないので、ストローなどに使えるだけで実用的ではないとのことであつた。発表会の司会も跡見学園中学校高等学校的生徒が務めた<sup>79</sup>。

また、一一〇二三年九月に東京辰巳国際水泳場で行われた第七〇回東京都中学校学年別水泳競技大会では、「中学一年女子五〇メートル自由形」の部で、本校中学一年生が優勝した。水泳競技の都大会での優勝は、跡見学園としては初めての快挙であつた<sup>80</sup>。跡見学園

<sup>78</sup> 跡見学園中学校『令和四年度 中学一年 北軽井沢 サイエンス探究教室のしおり』。

<sup>79</sup> 「生徒理科研究発表会」で科学部の中1チームが研究発表『ブロッサム』第四九号、一一〇〇年七月、一頁。  
<sup>80</sup> 「東京都の水泳大会で優勝」『ブロッサム』第五四号、一一〇二三年一月、一一页。

中学校高等学校では、運動部の活動も活発になりつつあつた。

### 第三章 第三の開学をめざして「一〇一九年～五年」

#### 跡見学園創立一五〇周年にむけての抱負

一〇一九年の年頭にあたって、跡見学園理事長の山崎一穎は、創立一五〇周年に向けて「すべての学生・生徒が安心して学べる教育環境、すべての教職員が誇りを持って働く職場環境の整備・充実を図るべく、「跡見一〇二五全体構想委員会」を立ち上げます」と宣言した。跡見学園の中学校高等学校、大学に生徒や学生を入学させた保護者の負託に応えるためにも「学生・生徒主体の教育」という原点に立ち帰り、「教育の中身をより充実させ、安心して学べるキャンパスの再整備を図る」ことが肝要だというである。

その背景には、①政府の地方創生方針のもとで、都内の大学の収容定員増がこれから一〇年間は認められなくなるなど、大学の定員管理が厳格になったこと、②一〇二二年度の大学入試から「大学入学共通テスト」が導入され、中高の教育内容が大きく変わることなどにみられるように、中高、大学をめぐる教育環境がますます厳しさを増していくという認識があつた。

山崎理事長によれば、女子大学では教養教育が必要であった。現代社会では、解のない出来事が頻発しており、文系でも生命

科学や健康科学などの理系に関する知識が求められている。したがって、教養教育を文系・理系相互を横断した文理融合型教育に組み替える必要があり、その実現こそが女子大学におけるグローバルの一端であると考えていた。中学校・高等学校では、ネイティブ教員による実践的な語学教育とＩＴ教育の充実が重要な課題であった。

施設・設備面では、女子大学はまず文京・新座キャンパスの再整備計画を早急に立案する必要があった。学生の教育・研究、それに就職活動の利便性などを考えると文京キャンパスでの四年間一貫教育が望ましいといえるが、長年にわたって地域と密着した教育を展開してきた新座キャンパスについても、その特性を生かしながら再整備を図らなければならない。中学校高等学校では、長年家庭の手作り弁当を持参することを原則としてきたが、共働きの家庭が増えているので現実的ではなくなってきた。

そのほか、教育・研究のための財政基盤の健全性を確保すること、教職員が安心して働く職場環境の創造、いわゆる働き方改革なども一五〇周年に向けて早急に実現しなければならない大きな課題

であつた<sup>81</sup>。

### 地域交流センターの開設と活動

二〇一九年四月、地域交流センターが大学附属の教育研究組織となり、事務組織として地域交流課が設置された。同センターのセンター長には、観光コミュニケーション学部の土居洋平准教授が就任した。専任教員（助教）も新たに採用され、地域交流センター運営委員会が設置された。同運営委員会の委員は各学部から選出されるが、そのほか地域交流活動に造詣の深い教員が専門委員として地域交流センターの活動に参加している<sup>82</sup>。

矛盾と不安』、植田今日子（上智大学）『『更地の向こう側』の記憶 地図—気仙沼市唐桑町宿での試みから』、楢橋修（神戸大学）『ふるさとの記憶—「失われた街」模型復元プロジェクト』の報告があり、関連する写真展「心はいつも子どもたちといっしょー三・一一からはじまつた、ある母子キャンプの七年」（写真・吉田智彦）も開催された。地域交流センターは、これを機に東日本大震災の被災地との交流を本格化させている<sup>83</sup>。

### 東京都交通局所有地の事業用定期借地権者の公募を見送る

跡見学園では、長年文京キャンパスに隣接する東京都交通局所有の巣鴨自動車営業所大塚支所跡地（約七二五五平方メートル）を含めたキャンパスの再整備を考えてきた。女子大学の新座・文京というデュアルキャンパスは経済的にも非効率であるし、教育・研究活動においても支障がないわけではなかつた。また、大塚支所跡地を含む文京キャンパスの再整備は、女子大学のみならず、中学校高等学校にとつても教育・研究活動の充実に資すると判断したため、二

<sup>81</sup> 山崎一穎「年頭のご挨拶」『プロツサム』第四六号、二〇一九年一月、

一頁。

<sup>82</sup> 『跡見学園報』第七〇号、別冊、二〇二〇年七月二十五日、二四頁。  
<sup>83</sup> 同前、四四〇四五頁。

〇一七年一〇月二四日の評議員会ならびに理事会で、同地の公募があつた場合には応募すると決議した。

その後、一〇一八年六月二〇日、東京都交通局は同地の事業用定期借地権者の公募を開始した。公募条件は次の通りであつた。

- ① 借地期間・三〇年以上四〇年以下（交通局の判断により最長五〇年未満まで協議可）。
- ② 最低月額賃料一〇七〇万円（一四七五円／ $\text{m}^2$ ）、年額一億二八四〇万円

③ 定期借地期間中、事業用建物に郵便局、文京区の地域コミュニティ施設・保育所・自転車駐輪場を賃借人として入居させる。

応募条件はこれまで跡見学園が想定していたものとかなりの齟齬があり、この公募は見送らざるを得ないと判断し、一〇一八年七月一〇日の評議員会、理事会に提案し、承認された<sup>84</sup>。

### 新型コロナウイルスの流行と跡見学園

一〇一〇年一月一五日、日本で初めて新型コロナウイルスの感染

者がみつかつた。神奈川県在住の三〇代男性で、新型コロナウイルスの発生源とされる中国の武漢への渡航歴があつた。その後、新型ウイルスの感染者は急激に増加し、二月二一日には一〇〇人、四月三日には一〇〇〇人を超え、四月一二日には死者数も一〇〇人を超えた。時の総理大臣の判断で、全国の小学校、中学校、高等学校が三月二日から臨時休校となり、同年夏に予定されていた東京オリンピックも一年延期されることになった。

新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け、中学校高等学校では三月二日以降休校となつたが、学年末試験の直前であったため、授業時間数としては一・五日の削減（三月二日が半日、三月四日が一日）ということになり、学年末考查が中止となつたとはいえ授業内容自体についてはほぼ予定通り終えることができた。卒業式・終業式は簡素化して実施し、卒業式については卒業生と保護者のみの出席で実施した。

四月から新学期が始まつたが、入学式は対面ではなく動画配信方式で実施された。授業は自宅学習として実施し、「レターパック作戦」と称して週に一度の割合で課題や学校からのお知らせを自宅に

<sup>84</sup> 「東京都交通局所有地の事業用定期借地権者の公募への対応に関する件」『跡見学園報』第六七号、二〇一九年一月二一日、三〇五頁。

送付した。また、タブレット端末・iPad、Classi(授業に用いる資料をダウンロードしたり、ウェブテストを実施できるインターネット上の教育システム)、MetaMoJi (iPad上にペンで書けるツール)、Google G Suite for Education(教育機関向けに作られたGoogleアプリセット)などを生徒に配布したりして学習を続けた。そして、MetaMoJi 上で授業用の動画を配信したり課題を提出させたりして、生徒の学習を持続させることもとに、Zoomを使用して教員や生徒の朝礼・面接を実施した。コロナ禍に、ICT環境が一挙に整備された。六月一日から生徒の分散登校が開始されたが、顔認証付き検温器、手指の消毒剤、器物消毒剤などを各所に設置し、感染拡大の防止に努めた。

女子大学では二〇一九年度の卒業式・修了式を中止し、文京キャンパスで卒業生・修了生に学科・研究科ごとに学位記を手渡した。また、密にならないよう気をつけながら卒業記念写真を撮る場を設定した。二〇二〇年度の入学式やオリエンテーションもすべて中止とし、春学期の授業は実習も含めてすべてオンラインとした。そのため、全学生のネット環境を調査し、ポータルやホームページを

利用して個人面談やオンライン授業への参加方法を指導し、学内の立ち入り制限の長期化に備えた。語学を中心とする海外研修も中止となつたが、各協定校(協定校外も含む)とはオンラインプログラムを実施し、英国の国立スターリング大学とはオンライン交流会を行つた。こうして、国際交流の機会を絶やさないように努力したが、二〇二〇年度から新たに実施することになつていた国立台湾師範大学(台湾)、東義大学校(韓国)での海外研修はやむを得ず中止となつた。

同時に学生生活の水準を維持するため、図書館では学外からもデータベースを利用できるようにし、図書資料の配達貸し出しも可能とした。就職課も、電話とメールによる相談に加え、五月一八日からはウェブ面談を実施した。六月一五日からは、入念な感染防止対策をとりながらPC教室や図書館などへの学生の立ち入り制限を緩和した<sup>85</sup>。なお跡見学園は、新型コロナウイルス感染症の拡大、緊急事態宣言の長期化という状況を踏まえ、女子大学および中学校高等学校の学生・生徒に一人当たり一律五万円の修学支援金を支給した。

<sup>85</sup> 「跡見学園での新型コロナウイルス感染症の対策について」『ブロッサム』第四九号、二頁。

コロナ禍の中でも、女子大学は活発な地域活動を展開していた。

二〇二一年一二月一日からは、東京都の支援する「大学等と連携した観光経営人材育成事業」に採択され、コロナ後の新たな旅のスタイルに適応した観光経営に対応できる人材育成を目的に「観光経営人材育成講座」を開講した<sup>86</sup>。また、二〇二〇年一二月から、TJUP（埼玉東上地域大学教育プラットフォーム）に参加し、他大学の学生や自治体・企業とともに地域活性化のための活動を行つてきた。そのことが評価され、女子大学は文部科学省の「二〇二二（令和三）年度私立大学等改革総合支援事業の「タイプ三：地域社会への貢献」に選定された<sup>87</sup>。

二〇二三年七月四日、女子大学の新座キャンパスに学生会館が竣工した。かつて、新座キャンパスにはクラブハウスや合宿舎があり、

学生の課外活動を支えていたが、老朽化が進み、建て替えが求められていた。新築された学生会館は、クラブハウスや合宿舎をコンパクトに集約した二階建ての建物で、学生たちの活動の拠点となることが期待されている。一階には学生たちの談話スペース、ミーティング

ングルーム、多目的ルーム・スペース、合宿スペース、二階には音楽スタジオのほか、茶道部、かるた部、放送文化研究部などの部室が並んでいる<sup>88</sup>。

コロナ禍は女子大学の文化祭「紫祭」にも大きな影響を及ぼした。二〇二〇年度には開催が見送られ、二一年度にはオンライン開催となつた。しかし、学生会館が竣工した二〇二二年度には三年ぶりに対面での開催となつた。焼きそばやたこ焼きなど、学生が飲食物を調理し販売することはできなかつたが、それでも学生たちは市販のドーナツやペットボトルの飲料を販売し、縁日を開催するなど工夫を凝らして紫祭を楽しんでいた<sup>89</sup>。

### 角川武蔵野ミュージアムと連携協定の締結

二〇二〇年八月、女子大学は公益財団法人角川文化振興財団の運営する「角川武蔵野ミュージアム」と連携協定を締結した。角川武蔵野ミュージアムは、図書館、美術館、博物館が融合した、まったく新しい文化複合施設で、二〇二〇年に埼玉県所沢市の日本最大級

<sup>86</sup> 「今年度も東京都の助成で「観光経営人材育成講座」を開講します」『ブロッサム』第五三号、二〇二二年七月、一一頁。

<sup>87</sup> 「私立大学等改革総合支援事業に選定されました」『ブロッサム』第五三号、二〇二二年、一一頁。

<sup>88</sup> 「学生たちの活動の拠点『学生会館』誕生」『ブロッサム』第五四号、二〇二三年一月、三五頁。

<sup>89</sup> 「コロナ禍でのマイナス面をプラスに変えて充実した学生生活に」『ブロッサム』第五四号、二〇二三年一月、一九二頁。

のポップカルチャーの発信拠点「（と）へやさわサクラタウン」内にオーブンした。建物は世界的に著名な建築家・隈研吾の設計で、その中には「マンガ・ラノベ図書館」「EJA ニュージアム」「本棚劇場」「グランドギャラリー」など図書館、美術館、博物館などで構成されている。第二代館長に就任した池上彰氏は、同ニュージアムについて「図書館なのか美術館なのか博物館なのか。いやそもそも何という分類の仕方が通用しないのが、このミュージアムです。いわば『（と）ちやまぜ』と称してもいいでしょう」と述べ、この『（と）ちやまぜ』の中から全く新しい文化さらには文明を創り出していこうというスタッフの意気込みに感動しました」と期待を寄せていた<sup>90。</sup>

女子大学では、文学部の現代文化表現学科が現代社会で生み出されるカルチャーやエンターテイメントといった文化現象を研究・教育の対象としているが、同学科ばかりでなくすべての学部学科との交流を図ることを目的に連携協定が結ばれた。連携の具体的な内容としては、インターナーシップなどを目的とする学生の派遣、学芸員

資格取得のための美術館実習などが考えられている。そのほか、女子大学の学生による企画、イベントへの参加なども想定されている<sup>91。</sup>

### 小仲信孝の女子大学学長就任

笠原学長の任期満了に伴い、二〇一一年四月には小仲信孝が女子大学の学長に就任した。コロナ禍の学長交代で、しかも一八歳人口の減少、女子高校生の共学化志向という、女子大学に逆風が吹く中のバトンタッチであった。小仲は跡見学園短期大学以来の、いわば本学生え抜きの教員でもあったが、女子大学で学ぶ意義を次のように訴えていた<sup>92。</sup>

女子大学で学ぶのは、いうまでもなく女性だけです。だから「女性だから」や「女性らしく」という呪縛のない環境で四年間を過ごすことができます。女性であることをことさら意識する必要がなく、自然体で自分らしく可能性を伸ばしていく」と

90 「図書館？ 美術館？ いい質問ですね」『朝日新聞』二〇一四年一月七日。

91 「角川武蔵野ミュージアム」唯一の連携大学に！」『ブロッサム』第五〇号、一〇頁。

92 「女子大学で学ぶ皆さんへ」<https://www.atomi.ac.jp/univ/about/philosophy/#massage>

ができます。

女子大学では、日常のあらゆる場面で切磋琢磨し合うことで、共感する力、協働する力、コミュニケーションする力はもとより、女性だけでさまざまな課題に取り組み、解決する経験をしてリーダーシップが育ちます。

日本社会は今、「女性だから」という制約から解放されつつあります。かつてより多様な選択肢が用意されています。だからこそ、どのような仕事に就き、どのような人生を送りたいのか、じっくりと自分自身と向き合いながら将来を見据える必要があります。ジェンダーバイアスのない女子大学には、新しい自分を発見できる環境が整っています。

小仲学長はジェンダーバイアスのない女子大学で学ぶ意義を強調し、女子大学の存在意義を改めて確認したのである。

きるのであればということで、残りの全学年に i Pad を持たせることにした。したがって、教員も急速 I C T スキルを高めなければならなくなつたが、I C T 支援員や若手教員の助けを借りながら I C T 教育を強力に推進した。ただし、オンラインで授業を行うにしても、クラス担任が顔を見ながら生徒が元気に生活をしているのかを把握することが大切だと考え、Z o o m による朝礼を実施するようとした。

また、コロナ禍の中であつても工夫をして学校行事などはなるべく実施するようにした。中学校三年生の修学旅行、高等学校二年生の研修旅行については実施時期を先に延ばして、感染対策をとりながら実施することにした。音楽会も海外から音楽家を招いて実施する予定であったが、急遽日本の音楽家に変更して実施し、「やめる」のではなく「どうしたらできるか」を考えた。

一方で、生徒には「どのような生き方や考え方を美しいと感じ、どのようなことを恥ずかしいと感じるか」「自分がどういう人間で、絶対に譲れない大切なものは何か」という、各人の「美意識」を持つようにと指導している。そのうえで、跡見では「言葉を大事にする教育を行っている」と述べ、「国語重視型入試」の説明をする。このような中学校高等学校の教育に、保護者も非常に大きな関心がある

## コロナ禍の中での中学校高等学校の教育改革

中学校高等学校では、新型コロナウイルスの蔓延という状況の中で、対面の授業が実質的にできなくなつたので、二〇二〇年度に一挙に I C T 教育を推進することにした。もともとは三年かけて i Pad を導入する計画であつたが、I C T 支援員を配置することがで

示すようになった。

教育改革の中で最も大事なのは教育内容の充実なので、生徒全員に授業の評価をしてもらい、外部の専門家に診断してもらうという「授業評価アンケート」を継続して実施した。また、外部の専門家による授業診断も開始した。専門家の指摘が的確であるため、教員も積極的に授業診断を受けるようになり、教員一人ひとりの「教える力」が向上しつつある<sup>93</sup>。

### カリキュラムの充実と生徒の活動

中学校・高等学校では、生徒一人ひとりの進路に合わせたきめの細かいカリキュラムにもとづいた教育が実施されている。二〇〇五年度から実施したいわゆる「新六日制」のもとでのカリキュラムは、五日制導入とともに実施したカリキュラムの良いところは活かすという方針のもとに作成されたので、高等学校のカリキュラムは幅広い科目選択を可能とする自由度の高いものとなつた（詳細は、『ブロッサム』第一七号〔二〇〇四年七月〕の特集「広がる、深まる、選べる。生まれ変わった中高の「新6日制」を参照）。そ

の後、中学校・高等学校のカリキュラムは、学習指導要領の改訂と生徒の実態にあわせて修正されてきた。二〇一二年度にはかつて存在していたコース制を復活させ、生徒が志望する大学を受験するために必要な科目を間違なく系統的に履修できるようにした。このカリキュラムを基本に、Iクラス・Pクラスの改廃にともなう変更や、二〇一三年度からの新学習指導要領の施行にあわせた改訂を経て、表5のような現行のカリキュラムができあがつた。

なお、現行カリキュラムでは、教科化された中学校の「道徳」は考查直後に集中授業として実施している。また、中学校のこれまでの「習字」の授業はALA（跡見流リベラルアーツ）と位置づけ、一般的な書写だけでなく創立者跡見花蹊の書を手本とする書写も行っている。そのほか、和室での立ち居振る舞いや茶道の基本所作を学ぶ「お作法」、折形礼法に則った紙の折り方を学ぶ「折形」などの授業を通して、日本の伝統文化に親しめるよう工夫をしている。

なお、中学校・高等学校の生徒たちは、課外活動にも積極的に取り組んでいた。跡見学園生徒会誌『跡見』には各部の活躍が紹介されているが、そのうちのいく一部を紹介すると、繊維工芸部は手工芸

<sup>93</sup> 「跡見学園中学校高等学校の教育を語り合う」『ブロッサム』第五〇号、二〇二一年一月、二〇四頁。

美術展覧会に作品を出品し、毎年のように文部科学大臣賞などを受賞している。全日本リコーダーコンテストでも跡見学園中高の生徒たちは活躍し、これまた毎年のように入賞している。二〇一二年度のNHK杯全国中学校放送コンテストでは、朗読部門で入選を果たした。さらに放送部は、二〇一四年度と二四年度の関東地区高校放送コンクールで優秀賞に輝いている。運動部では水泳部の活躍がめざましく、二〇一八年度の日本選手権水泳競技大会でアーティスティックスイミングチームが第一位となつた。また、二〇二四年度にはJOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会の女子一三～一四歳の部五〇メートル自由形で優勝している。

表5 中学校高等学校の現行カリキュラム

## 中学校高等学校の「探究型創造学習」

中学校高等学校では、これまでも「本物に触れる教育」「自ら考える力の育成」に力点を置いて、自然教室や広島への修学旅行などさまざまな学校行事を実施してきたが、それらを単発の行事としてではなく、中学校三年、高等学校三年の六年をかけて生徒の探究姿勢や創造性を養う新たな教育プログラム（「将来構想プロジェクト」による）に進化させ、二〇一〇年度から実施した。六年間かけて、「正解のない問いに対しても自分で調べる、自分で答えを出していく力、価値を創造する力」を培おうというプロジェクトである。

そのプロジェクトを図に示すと図1のようであるが、まず中一、中二のときに行われていた「自然教室」を「サイエンス探究教室」とリネームし、「自分の身近なところからSDGsについて考える力」を養うプロジェクトとした。中三では三泊四日の「SDGs探究旅行」を実施し、「平和と環境問題について考える力」を育てる。中三から高一の春休みには「キャリア探究課題レポート」を書いて将来の進路を考え、高一の「キャリア探究DAY」（キャリアインタビューや企業訪問で進路を考える）、高二の「セルフプロデュー

ス旅行」（旅を自分で設計し、テーマに沿って行動する）で身近な関心から、社会・世界へと視野を広げ、「自らのキャリア形成をプランニングする力」を育てる。そして、高二になつたときに、単に進学先を決めるのではなく、広い視野をもつて一〇年後、二〇年後なりたい自分を見通して進路を決定する、という六年間のプロジェクトである。

このプロジェクトは、「自らの美意識のもとに新たな価値を生み出し、周りを幸せにする女性」を育成することを目標とし、それを達成するために「跡見流リベラルアーツ」「本物の美の探求」「探究型創造学習」という三本の柱を立てた。たとえば、中三で実施する「SDGs探究旅行」は「SDGsについて、体験し考える宿泊行事」で、広島、沖縄、九州（長崎・熊本）の三コースを設定している。いざかのコースを選んで参加し、社会の動きを「自分」として捉え、どのように社会に貢献していくかを考えきつかけになることを期待し、民泊をして現地の方々と交流したり、地域の文化を学んだりする場を設定している<sup>94</sup>。

二〇一四年九月二四日から二八日にかけて、最初の「セルフプロ

<sup>94</sup> 鈴木真人「『自らの美意識のもとに新たな価値を生み出し、周りを幸せにする女性』を育む」『ブロッサム』第五五号、二〇一三年七月、五頁。

「デュース旅行」が実施された。中学校高等学校教諭の鈴木真人によれば、「セルフプロデュース旅行」は「中一から自分が何に興味があるのかを見つけ探究テーマを設けて、自分なりの美意識を培つてきた生徒たち」にとって、いわば「その集大成」であった<sup>95</sup>。

新たな教育プログラムが始まった二〇二〇年度には中学一年生であつた生徒が高校二年生となり、奈良、大阪、兵庫の三コースのうちから一つを選んで、自ら旅程を組んで訪れるのである。その後半日程では、全員集結した京都で学びを得る。兵庫コースを選んだ生徒は、次のような感想を寄せている<sup>96</sup>。

私は兵庫コースを選んだのですが、それは私自身が観光事業に興味を持つており、兵庫県に一度行つてみたかったからです。

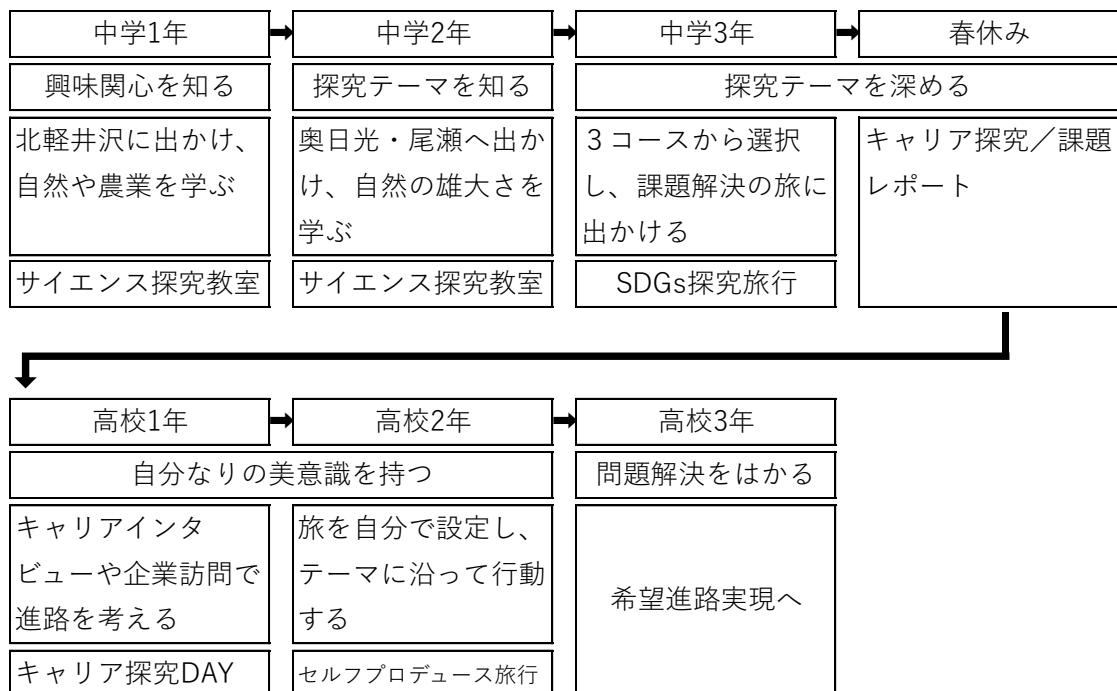
一番印象に残っているのは北野異人館街で、ビルや住宅街が立ち並ぶ場所から坂を上ると、そこには異国情緒あふれる町並みが広がつており、そのギャップに心惹かれました。私のグループは「兵庫の美意識とは何か」という問いを立てていましたが、「北野異人館街で兵庫の『海外の文化や歴史を大切にし、守り続ける』という美意識を感じました。

訪問先では多くの観光客を見かけましたが、マナーを守らない方を目にして悲しい気持ちになることもあります。これから先も愛される場所であるために、観光地を大切にするという気持ちを持った行動は大事だと改めて感じました。

今回のセルフプロデュース旅行は自分たちの「積極性」が旅行の充実度を高める鍵だったと思いますが、プランや問い合わせに入念に立てた準備過程も含め、自分の理想像に近づく意味のある一步になつたと思います。自分にとって困難なことからも学びや経験を得られる人でありたいです。

<sup>95</sup> 鈴木真人「生徒たちの成長を実感」『ブロッサム』第五七号、二〇一四年一二月、七頁。  
<sup>96</sup> 芦田菜那子「『積極性』で旅行が充実」『ブロッサム』第五七号、二〇一四年一二月、八頁。

図1 中学校高等学校の探究型創造学習プログラム



### 中学校高等学校の海外留学の環境整備と高大連携

中学校高等学校では、生徒の卒業後の進路を考えて海外留学の環境整備や高大連携を積極的に推進するなど、多様な試みを行っている。ニュージーランド、オーストラリア、アメリカ、イギリスなどの提携校での海外研修や留学制度が用意されているが、二〇一九年三月にはUPAS (University Pathway Admission Service) と協定を結んだ。UPASは、海外大学進学協定校推薦入学制度と翻訳されているが、海外の大学が学内の多様性を高めるため、優秀な日本人学生を受け入れるために設けられた制度で、二〇一五年現在ではアメリカ、イギリス、オーストラリア、カナダ四か国の約100大学が加盟している。また、同年の夏休みには河口湖畔で“Achieve English camp”という短期英語学習プログラムを実施し、以後長期休暇毎に英語力アップに特化したプログラムを提供している。まずは国内で英語漬けの生活を体験し、積極的に海外留学を目指してもらいたいという願いからである。なお、高校生向けセブ島語学研修を用意し、夏・春の長期休暇を利用して多国籍入りまでの環境での英語力向上を目指している。

高大連携の強化にも取り組んでおり、二〇一四年八月には東京農業大学生命科学部と同応用生物科学部との高大連携協定を締結し、

二〇二七年度までの三年間、教育活動での連携を継続的に図ることになった。中学校高等学校は二〇二二年から東京農業大学と交流を始め、生命科学部の教授陣を招いて生物や化学の実験教室を開催するなどしてきた。松井校長は、「これまでの出張授業（実験）にも生徒たちは積極的に参加してきました。今回の高大連携により、さらに生命現象や環境問題、生物の仕組みなどに关心を持ち、視野を広げてもらいたい」と東京農業大学との高大連携に期待を寄せている<sup>97</sup>。

中学校高等学校では、東京農業大学以外にも東京理科大学、芝浦工業大学工学部、中央大学法学部、学習院大学国際社会科学部、明治大学情報コミュニケーション学部などから講師を招いて講義をしてもらい、生徒に大学での学びがどういうものか理解してもらうよう努めている。また、昭和女子大学とは二〇一三年からSho wa Boston Programでの連携をはかり、Bostonの寮での研修プログラムに生徒を参加させていている。

二〇二〇年から二一年にかけて、文京区教育委員会は「柳町遺跡」の発掘調査を実施した。神田中猿樂町に誕生した跡見学校は、一八八八年に小石川柳町（現在の文京区小石川一丁目）に移転し、「跡見女学校」と改称した。神田中猿樂町の市街化が進んだため、よりよい教育環境を求めて小石川柳町に新校舎を建てて移転したのである。一九三三年に現在の大塚に移るまで跡見女学校は柳町にあり、跡見家の家塾・私塾的な性格から女子中等教育機関へと脱皮を遂げた。

柳町の校地には池があつたが、発掘調査によつて校舎を拡張したときに埋め立てられていたことがわかつた。そして、池を埋め立てるさいに不用品が投げ込まれたらしく、当時跡見女学校の生徒たちが使用していたと思われるものが出土した。そのなかには、鉛筆や万年筆などの文房具のほか、化粧水やセルロイド製の櫛などがあり、当時の女性の日常生活を垣間見ることができる。

女子大学の地域交流センターでは、文京区との共催で二〇二二年一〇月一七日から二二日にかけて発掘成果展「発掘された跡見女学校～明治・大正・昭和の女学校生活～」を開催し、二二日にはシン

<sup>97</sup> 大学プレスセンター「跡見学園中学校高等学校が初の高大連携協定を東京農業大学と締結 バイオサイエンス分野で活躍する女性の育成で連携」二〇二四年九月一日。

## 発掘された跡見学校

ポジウム「文京歴史探訪～柳町から発掘された文京の歴史～」を実施した。発掘成果展は、跡見学園女子大学の学生有志団体である「跡見『学芸員』in菊坂」の学生たちが企画・実施し、シンポジウムでは文学部の泉雅博教授が跡見学園史の視点から柳町遺跡の調査成果について講演した。来場者からは、「当時の女性の生活などがリアルに想起される面白い展示でした」「想像以上に充実した展示で、昔の跡見に想いを馳せる心地よい時間を過ごせました」などの感想が届けられた<sup>98</sup>。

### 跡見裕の理事長就任

跡見学園では、山崎一穎理事長の任期満了に伴い、二〇二三年六月二十四日の理事会で、跡見裕を新理事長に選任した。跡見裕は愛知県の医師の家系に生まれ、江戸時代後期に大阪の適塾や江戸の順天堂で学んで活躍した医師の跡見玄山を祖先に持つが、玄山は跡見花蹊の縁戚にあたり、跡見学園とも浅からぬ縁があった。東京大学医学部を卒業し、杏林大学の学長を務めたこともある。

ところで、これからの私立大学、とりわけ女子大学をめぐる状況には大変厳しいものがある。図2は、二〇二〇年から二〇四〇年までの一八歳人口の推移をみたものである。二〇二〇年に一一七万人であつた一八歳人口は、二〇二三年には五万人ほど減つて一一二万五人となつた。しかも、その後も増加する気配はなく、二〇三〇年には一〇八万人、二〇四六年には八六万人となる。多少の大学進学率の上昇を見込んでも、大学受験者の減少は避けられない。しかも、女性の社会進出に伴つて、共学の大学を志向する女子高校生が増えているので、女子大学には一層厳しいものがある。多くの女子大学が定員割れを起こす中で、跡見学園女子大学も例外ではなく、この数年定員を割り込んでいる。二〇二四年は、女子大学の新入生が四九九人にとどまり、入学定員の五一・四パーセントとなつた。

そのような中での理事長就任であり、跡見は就任早々学内の改革に着手しなければならなかつた。就任直後に発刊された『跡見学園報』（第七六号、二〇二三年七月）において、早急に取り組まなければならぬ課題として、「学部・学科の再編」「キャンパス問題』

<sup>98</sup> 「発掘された跡見女学校」『ブロッサム』第五四号、二〇二三年一月、一〇頁、『文京歴史探訪～柳町から発掘された文京の歴史～』（跡見学園女子大学地域交流センター ブックレット）二〇二三年三月、二頁、七一頁、一〇〇頁。

「財政的な側面」「ブランド力の向上・広報の重要性」などをあげ

<sup>99</sup>、『ブロッサム』編集部が企画した二〇二四年一月の「新理事長就

任記念新春対談」で次のように語っている<sup>100</sup>。

跡見学園女子大学は文京と新座の二つのキャンパスがあることが特徴ですね。文京キャンパスは都心にしては広い敷地を持っています。それをどう活かしていくかがこれから課題です。また、新座キャンパスもどう活用するか、いろいろと検討の余地があります。

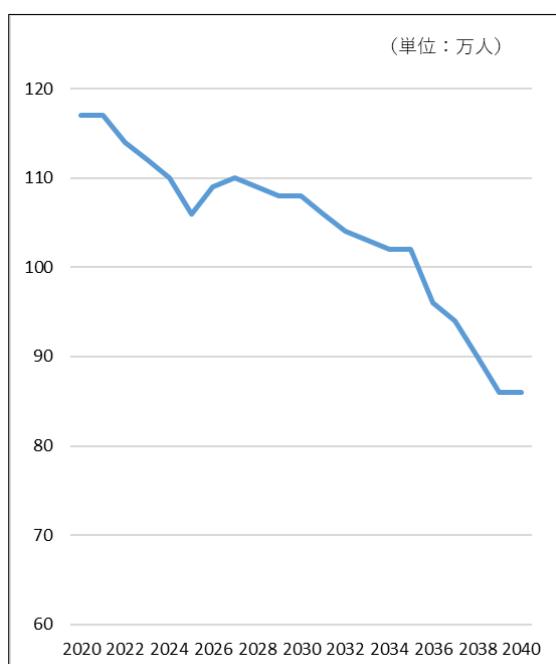
跡見学園女子大学の大きな課題は、入学者が減っていることです。一〇年先、二〇年先を見通して、魅力ある大学にいかなければなりません。勇気を持って踏み出し、伝統の支えのもとに、進んでいくことが必要です。

このように跡見新理事長は、文京、新座の両キャンパスの使い方を考え、女子大学を高校生に受け入れられる魅力ある大学に改編していくかなければならないという見解を示した。

なお、前理事長の山崎一穎は二〇二四年九月一四日に逝去され、

一一月二四日には本学跡見講堂で「お別れの会」が実施された<sup>101</sup>。

図2 18歳人口の推移（2020～40年）



出典：2022年以前は文部科学省『学校基本統計』、

2023年以降は国立社会保障・人口問題研究所『日本の将来推計人口（令和5年推計）』。

101 100 99 跡見裕「理事長就任にあたって」『跡見学園報』第七六号、二〇二三年七月、二〇三頁。  
「新理事長就任記念新春対談」（『ブロッサム』第五六号、二〇二四年一月、二頁）。

「前理事長山崎一穎先生お別れの会が執り行われました」（『ブロッサム』第五七号、二〇二四年一二月、一八頁）。

## 「はいからさんが通る」の使用許諾契約

跡見花蹊が跡見学校を開設したのは一八七五年だったので、跡見学園は、二〇二五年に創立一五〇周年を迎えることになる。創立記念日は一月八日であるが、跡見学園では二〇二五年を創立一五〇周年の記念の年と位置付け、記念祝賀会はもちろん、ホームカミングデー、その他の記念行事が計画された。

そうしたなかで跡見学園は、二〇二三年一月一日に出版大手の講談社と「はいからさんが通る」広告宣伝使用許諾契約」を結んだ。「はいからさんが通る」とは大和和紀という漫画家の作品で、

一九七五年の七号から七七年の一〇号まで『週刊少女フレンド』(講談社)に掲載された。大正デモクラシーを象徴するような花村紅緒という快活な女学生と眉目秀麗な陸軍少尉・伊集院忍との恋物語で、若い女性の間で大人気となつた。アニメや映画にもなり、宝塚歌劇でも演じられた。

この花村紅緒が「はいからさん」で、彼女が通う「跡見学園」のモデルは跡見学園であった。そこで、跡見学園では「はいからさん」を、創立一五〇周年を広告・宣伝するさいのキャラクターとして、ホームページ、SNS、学校案内、ポスター、チラシ、グッズ、景品などに使用することにしたのである。跡見学園は、二〇二三年

一一月に読売新聞（一一月一九日）、朝日新聞（同上）、日本経済新聞（一一月二一日）の三紙に「二〇二五年、跡見学園は一五〇周年を迎えます」という一面広告を掲出したさいに、「はいからさん」をキヤラクターとして使用した。そのほか、「はいからさん」を印刷したクリアファイル、アクリルキー・ホルダー、缶バッジ、ポストカードなどを作成し、学校説明会、オープンキャンパス、進学相談会、学校見学会などで関係者に配布した。

## 新学部の設置構想と既存学部学科の再編

跡見裕新理事長は、就任後女子大学の定員割れの状況を一日も早く解消することが最大の課題であると認識し、二〇二四年五月二八日に開催された理事会で新学部構想を含む女子大学学部学科再編構想について次のように報告した。

### ① 令和六年度大学・高専機能強化支援事業への応募

令和六年二月末に「令和六年度大学・高専機能強化支援事業」にデータサイエンス系「情報芸術学部（仮称）」（入学者定員一〇〇名）を令和八年度に文京キャンパスに新設する構想をもつて応募しました。このことは、三月二六日開催の理事会・評議員会で報告したところです。当該支援事

業の採択の可否は六月中旬に判明する予定です。

令和八年度に進学部を開設するためには、令和七年三月には文部科学省に設置認可申請を行う必要があります。当該支援事業の採択結果が出てからの設置認可申請準備にかかると、文部科学省への設置認可申請書類の提出に間に合わないことから、令和六年四月には学園内のみならず外部有識者にも新学部設置準備委員会委員を委嘱して「新学部設置準備委員会」を発足し、設置認可申請準備に取り掛かっています。

## ② 既存学部学科の再編構想

令和六年度入学者数は入学定員九七〇名のところ四九八名（入学定員充足率五一・二%）に留まり、令和六年五月一日現在の在学生数は収容定員三八八〇名のところ二九六七名（収容定員充足率七六・五%）となっています。修学支援制度の要件（収容定員充足率八〇%以上）を充足できていない状況です。

入学者数が入学定員の半数になつたことから、財政的に

もさらなる厳しい局面を迎えています。新座キャンパスの経常経費（光熱費等）が二億八千万円、老朽化対策設備投資に昨年度は四億円、年間合計六億八千万円がかっています。

学園を維持するため、受験生にとって魅力ある学部学科への転換を進めるとともに、入学定員を大幅に見直すことと、文京キャンパスへの一元化を検討しています。

このように、跡見理事長は、新学部「情報芸術学部」<sup>102</sup>の開設と既存学部学科の再編を構想した。新学部は文京キャンパスに設置し、既存学部学科も規模を縮小して修学地の文京キャンパスへの一元化をはかるうというものである。

### 新学部「情報科学芸術学部」の設置申請とその取下げ

跡見学園では、一〇一四年一月に女子大学に「情報芸術学部」（仮）を新設すべく「令和六年度大学・高専機能強化支援事業（学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）」に応募した。その結果、二〇二四年六月二六日付で選定されたことになった。

その後、「情報芸術学部」は「情報科学芸術学部」と改称するが、

102 なお、「情報芸術学部」はその後「情報科学芸術学部」と名称を変更した。

これによつて跡見学園は女子大学に「情報科学芸術学部情報科学芸術学科」を新設する準備を加速していくことになつた。「情報科学芸術学部」は、データサイエンス（情報科学）とメディアアート（芸術）の両分野をかけ合わせた文理融合の学部で「情報科学芸術学科」一学科八〇名、文京キャンパスでの開設をめざすとし、二〇二四年一〇月二二一日の理事会・評議員会で審議・承認された。

そして、特定地域内学部収容定員の増加の抑制に対する例外要件を満たすため、朝日大学（岐阜県瑞穂市）及び静岡英和学院大学（静岡県静岡市）との間でそれぞれ「デジタル人材育成に係る協定」を結ぶなど、着実に文京キャンパスでの開設に向けた準備を進め、二〇二五年三月、文部科学省に新学部の設置認可申請を行つた。しかし、審査の過程で計画の抜本的見直しを求める「警告」を受けるなどいくつかの要素が重なり、これらを総合的に検討した結果、苦渋の決断ではあつたが、二〇二五年七月二十九日開催の理事会で新学部の設置認可申請等を取り下げる決定した。ただし、新学部設置申請の中で培つてきた情報芸術教育体系の知見は、今後加速する学部学科再編の中に取り込んでいくこととなつた。

## 中学校高等学校のスクールバッグを刷新

山口氏は、途上国が自立できる仕組みを作りたいと考えて、マザーハウスを起業した。松井校長は、「こうした山口氏の生き方に感銘を受け、生徒に「自分の人生を自分で選び取れる人に育つてほしい」という願いを込めて同社にスクールバッグのデザインを委託した」という。そのマザーハウスの山口氏が、中学校高等学校の生徒たちのアイディアや意見を取り入れ、約一年半をかけてスクールバッグを「デザインした。生徒たちの声を反映した機能や特徴は、次のような点である。

二〇二五年一月八日、跡見学園は創立一五〇周年を迎えた。一五〇周年を機会に中学校高等学校では、「生徒たちの声を反映した、

創立一五〇周年を記念するスクールバッグをつくりたい」という松井校長の思いを株式会社マザーハウス（東京都台東区）の代表兼チーフデザイナーの山口絵理子氏に託し、スクールバッグを刷新することにした。マザーハウスは「途上国から世界に通用するブランドをつくる」を企業理念とする会社で、二〇〇六年の設立以来、バングラデシュ、ネパール、インドネシア、スリランカ、インド、ミャンマーなどでバッグ、ジュエリー、アパレルなどを制作して世界の顧客に届け、途上国の可能性をモノづくりを通じて世界に伝えてきた。

- ・中高六年間使える「丈夫さ」と「軽さ」に加え、「かわいい」と思えるものを。

- ・リュック型でなくスクールバッグ型を希望。

- ・中学校の机の横にかけてもバッグの底が床につかないベルトの長さ。

- ・生徒手帳やi Pad、水筒、パースなど、持ち歩くアイテムのサイズに合わせたポケット収納。

- ・色はスクールカラーの「紫紺」に合ったネイビーとし、ベルトはネイビーとブラウンの二色で試作。校長室前に一週間、両色の試作バッグを展示して全校生徒が投票。多数決でバッグ記事と同色のネイビーのベルトに決定。

スクールバッグは、二〇一五年度入学の新一年生から使用を開始し、在校生にも希望があれば販売することになっている。

### **中学校高等学校の盛夏用ポロシャツの導入**

二〇一五年度、中学校高等学校はスクールバックの導入に加え、盛夏用ポロシャツを導入した。昨今の異常な酷暑の中、通気性・速乾性に富んだ盛夏服導入の必要性が高まり、創立一五〇周年となる二〇一五年度から生徒が着用できるよう企画したものである。ポロ

シャツは、オーバーシャツ・スキッパータイプ（第一ボタンがなく、襟元が広いタイプ）で紺色と白色の二色から選べ、制服のボトムスとの相性がよく、サンプル公開時から生徒にも好評を得ていた。現在の跡見学園中学校高等学校の制服は、創立一四〇周年記念を機に新しくデザインされたものであり、それから十年が経つた創立一五〇周年に、ポロシャツという新たな制服の選択肢が加わったのである。

### **代々木体育館での中学校高等学校体育祭開催とメイポールのリニューアル**

二〇一五年七月一日、中学校高等学校は初めて代々木体育館で体育祭を開催した。気温上昇が続く中、安全に体育祭を行うための新たな試みである。これまで校庭で開催してきた体育祭では、施設設備の構造上、保護者の観覧席を余裕をもって設けることができなかつたが、代々木体育館ではその心配もなくなつた。そのため、例年以上に多くの保護者が観覧する盛況な体育祭となつた。

また、代々木体育館での体育祭開催のためメイポールのポールを跡見校友会泉会の全面的な援助によりリニューアルした。メイポールは、先端から一〇数本のリボンを垂らした長いポールを地面に垂

直に立て、そのリボンを生徒が一人一本ずつ持ち、曲に合わせてステップを踏みながらポールの周りを回つてポールにリボンを編み付けていく集団演技である。中央に立てたポールには支えがなく、生徒のチームワークが試される跡見学園中学校高等学校体育祭における伝統的な演目である。同演目のポールは、校庭用に長年丈夫な木を使用してきたが、代々木体育館で使用するには床面を傷つけた。それを跡見校友会泉会の全面的な援助により、床面で使用できるよう十三本のポール全てに加工を施したのである。

今回のリニューアルではポール上部の飾り取り付け部分にも工夫がなされ、本番では生徒が美術で製作した大きな花のオブジェが演技に華を添えた。

### 中学校高等学校多目的棟（仮称）の竣工

二〇二五年七月一八日、中学校高等学校に多目的棟（仮称）が竣工し、竣工式を実施した。多目的棟（仮称）の建設は、中期計画「ATOMI PLAN 2025」で計画したもので、跡見学園創立一五〇周年事業の一つとして行われた。その構造は、鉄筋コンクリート造の地上三階建てで、一階に面談室や面談スペース、二階に自習室、三階にラウンジを設け、各階ともに大きな窓ガラスを採用し、明るく快適なスペ

ースとなっている。九月から供用を開始し、今後行うアンケート結果を踏まえて建物名称を決める予定となっている。

### ホームカミングデーの開催

二〇二五年五月一〇日、跡見学園は学園創立一五〇周年記念事業の一つとしてホームカミングデーを開催した。跡見校友会泉会、跡見校友会桃李の会、跡見校友会一紫会の協力のもとで実施し、二六名の卒業生が来場した。当日は、各校友会による企画が行われる中、跡見校友会一紫会企画では、東日本大震災で卒業式が中止となつた二〇一〇年度の卒業生を対象とする「第四三回生のための卒業記念セレモニー」が開催された。会の呼びかけを受け三三名が参列し、その多くは跡見校友会一紫会寄贈の袴を身にまとつての参列となつた。

### 創立一五〇周年を迎えて

二〇二五年、跡見学園は創立一五〇周年を迎えた。一八七五年一月八日、跡見花蹊が神田中猿楽町に跡見学校を創立してから一五〇年の年月を経たのである。一五〇年の間には、関東大震災（一九二三年）、敗戦（一九四五年）など、学園存亡の危機に直面したこと

もしばしばであった。そうした困難を乗り越えての一五〇周年であつたが、現在もかつてない危機のなかにある。

一八歳人口の急激な減少、女子高生の共学志向（女子大離れ）が顕著となり、数年前から定員割れに悩む女子大学が首都圏においても増加してきた。跡見学園女子大学もその例外ではなかつた。修学地の文京校地への集約、女子大学は四〇〇〇人弱の定員を擁し、跡見学園の収入の七割近くは女子大学の学生生徒等納付金に依存しているので、女子大学の定員割れは跡見学園の存亡にかかわる重大な問題であつた。こうした危機を突破するため跡見裕理事長は、女子大学の将来ビジョンを、①情報科学芸術学部の新設、②修学地の文京校地への集約、③既存学部学科の再編と規模の適正化に求め、新年のあいさつで次のように述べた<sup>103</sup>。

我々は一五〇周年を機に変わらなければなりません。「自律し、自立する女性」を育成するという建学の理念を具体化し、社会からの評価や進学希望者から期待に応えられる大学への生まれ変わりをめざします。かつての教養教育中心の單科大学から広く人文社会科学全般を学ぶ四学部体制への成長を第二

の開学とするならば、今こそ、跡見に学ぶ学生諸君が「自律し、自立する女性」として社会にはばたくことのできる教育体制への転換を図るべきであり、これを第三の開学と呼びたいと思します。具体的には、女子大学にあって、大幅なカリキュラム改革を行うことを皮切りに、新たな教育研究分野として情報科学芸術学部を開学する、また学生の利便性を高めるため修学地を文京校地に集約する、さらに学部学科再編や規模の適正化を進めてまいります。

このうち、情報科学芸術学部の設置認可申請は取り下げることとしたが、学部とは異なる形でその教育研究の実現をめざす予定であり、このことを含め、跡見学園第三の開学を実現強化する所存である。

<sup>103</sup> 跡見裕「令和七（二〇二五）年新年挨拶」『跡見学園報』第七九号、二〇二五年一月二十五日、二〇三頁。

## 【略年表】跡見学園最近 20 年のあゆみ

年	月	日	事 項
2005	1	8	跡見学園創立130周年。
2005	4	1	女子大学に大学院人文科学研究科（日本文化専攻・臨床心理学専攻）を設置。
2005	4	1	女子大学、「アトミ・インフォメーション・ポータル」（情報伝達共有システム）を導入。
2005	4	1	中学校高等学校の授業日を週5日制から6日制に変更。
2005	8	5	女子大学マネジメント学部は「実践教育の場としての地域連携プログラム」を提案し、2005年度の文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム〔現代GP〕」に採択される（テーマ：地域活性化への貢献〔地域密着型〕）。
2005	10	26	女子大学開学40周年記念シンポジウムを開催（「人生をもっと楽しくマネジメント！」、シンポジスト：加藤タキ・佐々木かをり・田中里沙、山崎一穎、会場：有楽町朝日ホール〈有楽町マリオン〉）。
2005	11	12	130年史編集委員会編『跡見学園—130年の伝統と創造』を刊行。
2005	11	12	跡見学園創立130周年記念式典を挙行。
2005	12	13	「跡見学園女子大学短期大学部の施設拡充計画（概要）」を評議員会・理事会で可決承認。
2005	12	20	『跡見花蹊日記』全4巻を刊行（のち、2007年4月20日に別巻〈参考資料・補遺編〉を刊行）。
2006	4	1	嶋田英誠（文学部教授・副学長）が女子大学学長に就任（短期大学部学長も兼任）。
2006	4	1	女子大学文学部にコミュニケーション文化学科、同マネジメント学部に生活環境マネジメント学科、同大学院マネジメント研究科（マネジメント専攻）を設置。
2006	4	1	女子大学短期大学部学生募集停止。
2006	4	1	女子大学、キャリア支援プログラムとして「社会人形成科目」を正課として実施。
2006	4	20	女子大学の大学院人文科学研究科臨床心理学専攻が、財団法人日本臨床心理士資格認定協会の第1種指定大学院となる。
2006	9	30	女子大学の文学部美学美術史学科を廃止。
2007	3	31	女子大学短期大学部を閉学。
2007	3	31	女子大学文学部英文学科を廃止。
2007	3	31	中学校高等学校校長の平井毅が病気療養のため辞任。
2007	4	1	山崎一穎常務理事（前女子大学学長）が中学校高等学校校長に就任（任期は平井毅校長の残任期間の2008年3月31日まで）。
2007	4	1	女子大学の教員組織を変更し、助教授に代えて准教授を設け助教を新設する。
2007	5	22	女子大学、文学部文化学科を廃止。
2007	9	30	女子大学、文学部国文科を廃止。
2008	3	25	中学校高等学校の教室棟増設を評議員会・理事会で決議。
2008	3	31	跡見学園鶴原寮（千葉県勝浦市）を閉鎖。
2008	4	1	山崎一穎が中学校高等学校校長に再任（任期は2012年3月31日まで）。
2008	4	10	女子大学、新座市と連携協力に関する包括協定を締結。
2008	7	5	中学1年生の8クラス編成にともない、中学校高等学校の教室棟（2階建て・鉄骨造り）が竣工。
2008	9	6	女子大学の文京キャンパス2号館竣工式を挙行。学部1・2年次の修学地を新座キャンパス、3・4年次の修学地を文京キャンパスとし、2008年度秋学期から実施。以後、女子大学の学生たちが文京区のまちづくりの企画案作成に積極的にかかわるようになる。
2008	11	4	中学校高等学校の「跡見小講堂」を「跡見李子記念講堂」と命名。
2008	11	27	女子大学のボランティア団体「さくら」が内閣府の「善行青少年健全育成労者（善行青少年団体）」として表彰される。また、2010年度には厚生労働大臣から感謝状を授与される。
2009	2	4	文京キャンパスの女子大学2号館が2008年度の文京区「第8回文の京・都市景観賞・景観創造賞」を受賞。
2009	3	12	女子大学が、（財）大学基準協会から「大学基準に適合している」と認定される。

年	月	日	事 項
2009	4	1	女子大学、お茶の水女子大学との図書館相互利用を開始。
2009	4	28	女子大学、英国スターリング大学と友好に関する協定を締結。
2009	9	30	跡見純弘理事長退任。
2009	10	1	山崎一穎（中学校高等学校校長）理事長就任。
2010	4	1	山田徹雄（マネジメント学部教授・副学長）が女子大学学長に就任。
2010	4	1	女子大学に文学部現代文化表現学科、マネジメント学部観光マネジメント学科を設置。
2010	6	1	女子大学で跡見英会話サロン発足。
2010	11	6	現代文化表現学科開設記念シンポジウム「表現することと発信する力を育てる女性へ」を開催。
2010	12	18	観光マネジメント学科開設記念シンポジウム「観光立国日本 跡見流こだわり旅を考える」を開催。
2011	3	11	東日本大震災発生。（女子大学卒業式、中学校卒業式中止。高等学校卒業式は規模を縮小して実施。）
2011	4	1	跡見学園女子大学の本部を東京都文京区大塚一丁目5番2号に移転。
2011	5	17	跡見学園、文京区と「相互協力に関する包括協定」を締結。
2011	7	29	女子大学、新座警察署と「女子学生安全対策協定」を締結。
2012	3	28	女子大学、北京語言大学（中国）国際合作与交流処と交流協定を締結。
2012	3	31	新座キャンパスのグリーンホール（学生食堂）、リニューアルオープン。
2012	-	-	文京区が森鷗外記念館を開館したさいに、跡見学園は映像制作に協力するとともに、講演会「鷗外の都市（東京）改造論」、展覧会「跡見卒の鷗外夫人と鷗外宛年賀状で見る～森鷗外展」を文京区と共に開催。
2012	4	1	女子大学、十文字学園女子大学と図書館相互利用協定を締結。
2012	4	1	跡見学園中学校高等学校の職名「主事」を「副校長」に名称変更。
2012	4	1	嶋田英誠（跡見学園常務理事）が中学校高等学校校長に就任。
2012	7	4	女子大学、広州美術学院（中国）と国際文化交流に関する覚書を締結。
2012	8	6	新座キャンパス耐震工事開始（9月25日まで）。
2012	9	7	跡見学園、文京区と「災害時における母子救護所の提供に関する協定」を締結。
2012	10	13	女子大学、文京区と共に第1回朗読コンテストを開催。
2012	11	22	女子大学、和光市と相互協力に関する包括協定を締結。
2013	4	1	女子大学に国際交流課を設置。
2013	4	30	跡見学園、茗荷谷交通ビル1階に地域連携施設「跡見ギャラリー」を開設。また、同ビル2階に心理教育相談所文京分室ATOMI「さくらーム」を開設。
2013	8	9	女子大学、英国スターリング大学と基本合意書（合意事項：教職員及び学生が国際的に優れた高等教育の推進をはかるべく行う連携活動の分野を見出すために協力して議論を重ねること）を取り交わす。
2013	8	18	国立高雄餐旅大学（台湾）と友好協定を締結。
2013	8	27	女子大学、ビシケク人文大学（キルギス共和国）と学術交流協定を締結。
2013	11	1	女子大学、日本女子大学の図書館と相互利用協定を締結。
2014	4	1	山田徹雄が女子大学学長に再任。
2014	4	6	昭憲皇太后百年祭（明治神宮開催）に跡見学園中学校高等学校の器楽部が参列し、リコーダー演奏を奉納。
2014	4	22	女子大学、ロイヤルローズ大学（カナダ）と基本協定を締結。
2014	4	26	女子大学、文京区との協働事業「シニアアラザ」プロジェクト（学生・教職員と地域の高齢者との交流）がスタート。
2014	4	29	女子大学、国立政治大学（台湾）と友好協定を締結。
2015	1	8	跡見学園創立140周年。
2015	3	11	女子大学、樋口一葉ゆかりの「旧伊勢屋質店」を購入。なお、旧伊勢屋質店は、2016年3月1日に文京区指定有形文化財に登録される。

年	月	日	事 項
2015	4	1	女子大学のマネジメント学部観光マネジメント学科を改組し、観光コミュニティ学部（観光デザイン学科、コミュニティデザイン学科）を設置。
2015	4	1	女子大学、文京区音羽に新学生寮「メゾン音羽」（地下1階、地上4階）開寮（新座市野火止の旧学生寮は3月31日に閉鎖）。
2015	4	28	跡見学園140周年記念事業の一環として森鷗外『舞姫』の自筆原稿を購入し、文京区と跡見学園の合同記者会見を開催。
2015	8	9	中学校高等学校でニュージーランド体験留学を初実施。
2015	10	24	跡見学園創立140周年・跡見学園女子大学開学50周年式典を举行。女子大学が『跡見学園女子大学五十年史』（編集・大学五十年史編集委員会）を刊行。
2016	4	1	杉本昌裕（文学部教授）が中学校高等学校校長に就任。中学校高等学校に「習熟度別クラス」（Iクラス、Pクラス）を導入。
2016	4	8	中学校高等学校の制服を一新し、中学1年生が新制服着用開始。
2016	4	19	女子大学が群馬県吾妻郡長野原町と地域活性化、地域研究、地域における人材育成などを目的とする包括協定を結ぶ。
2016	8	1	森鷗外の「舞姫」直筆原稿が、文京区立森鷗外記念館で跡見学園が所蔵する鷗外関係資料とともに公開される（9月11日まで）。
2017	4	8	高校1年生が新制服着用開始。
2018	4	1	笠原清志（マネジメント学部教授）が女子大学学長に就任。松井真佐美（中高教諭）が中学校高等学校校長に就任。
2018	4	1	女子大学の文学部臨床心理学科を改組して、心理学部（臨床心理学科）を開設。
2018	5	20	女子大学が心理学部開設記念シンポジウム「跡見学園女子大学と臨床心理学—その未来へ」を開催。
2019	4	11	中学校高等学校で「英語取り出し授業」を導入し、授業開始。
2019	7	11	中学校高等学校がUPAS(海外大学進学協定校推薦制度)に加盟し、初の生徒・保護者向け説明会を開催。
2019	7	21	中学校高等学校で河口湖Achieve English Campを導入し、初実施。
2020	1	15	日本で初めて新型コロナウィルスの感染者がみつかる。以後、2023年度までコロナ対策に追われる。
2020	6	3	中学校高等学校の探究型創造学習プログラムが始まる。（新型コロナウィルス感染症による休校措置により6月3日から分散登校による授業開始。）
2021	4	12	中学校全学年にオンライン英会話（フィリピン人講師とのマンツーマンレッスン）を週1で導入。
2021	12	11	女子大学が東京都の支援する「大学等と連携した観光経営人材育成事業」に採択され、「観光経営人材育成講座」を開講。
2022	2	17	女子大学、文部科学省の「令和3（2021）年度私立大学等改革総合支援事業」の「タイプ3：地域社会への貢献」に選定された。
2022	4	1	小仲信孝（文学部教授）が女子大学学長に就任。
2022	7	4	女子大学の新座キャンパスに学生会館が竣工し、竣工式を举行。
2022	9	21	中学校高等学校で中3SDGs探究旅行を導入し、初実施。
2023	3	26	中学校高等学校で、新型コロナウィルス感染症により実施できなかったセブ島語学研修を初実施。
2023	6	24	跡見裕（跡見学園理事・元杏林大学学長）が跡見学園理事長に就任。
2024	4	1	中学校募集定員を270名から250名に変更（2025年4月入学者から適用）。
2024	6	26	文部科学省の「令和6年度大学・高専機能強化支援事業（学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）」に選定される。
2024	9	24	中学校高等学校で高2セルフプロデュース旅行を導入し、初実施。
2025	1	8	跡見学園、創立150周年。
2025	3	7	「跡見学園女子大学情報科学芸術学部設置認可申請書」を文部科学大臣に提出。
2025	4	1	中学校高等学校の制服をリニューアル。跡見学園中学校高等学校の制服として盛夏用ポロシャツを導入。
2025	5	10	跡見学園創立150周年記念ホームカミングデーを開催。
2025	7	1	中学校高等学校の体育祭を代々木第一体育館にて初開催。
2025	7	18	中学校高等学校多目的棟（仮称）が竣工し、竣工式を挙行。
2025	7	30	「情報科学芸術学部」の設置認可申請取り下げを文部科学省に届出。
2025	11	29	跡見学園150周年記念式典・祝賀会を開催。

**跡見学園 最近10年の歴史 (1999年~2009年)**

編集 一五〇周年記念事業企画委員会

発行 学校法人跡見学園

〒 112-8629 東京都文京区大塚一-五-九  
電話 ○三一-三九四一-八一六一

©ATOMI GAKUEN 2025



ATOMI GAKUEN